

米に関するマンスリーレポート

(平成28年11月号)



【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。

農林水産省

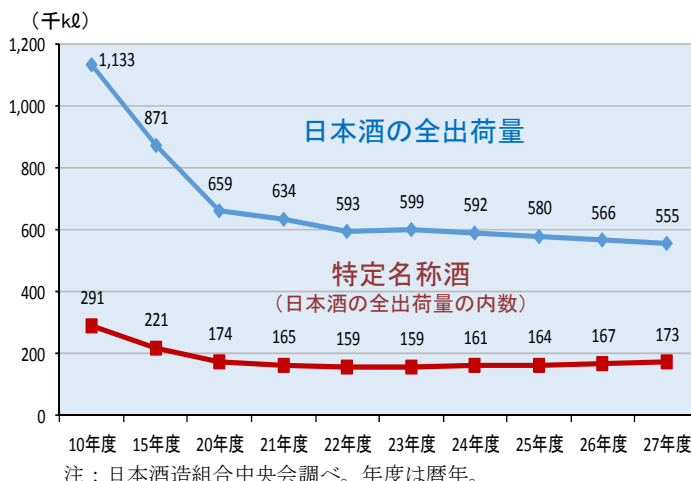
今の特集①

【酒造好適米の需要量調査結果の状況】

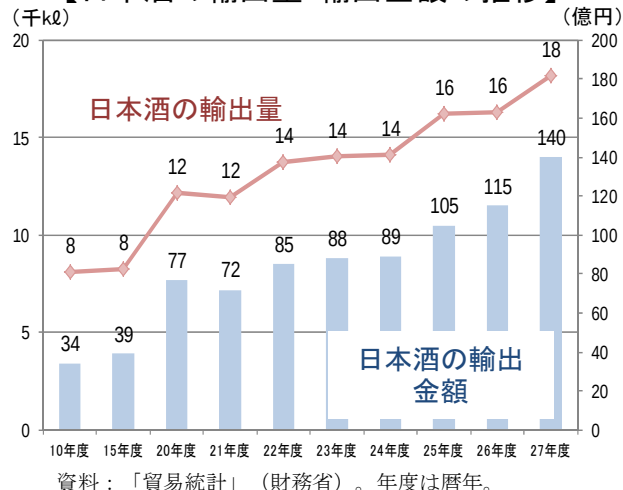
1 日本酒をめぐる状況

- 日本酒については、消費者志向の変化に伴い、特定名称酒の出荷が堅調に推移しており、加えて、輸出も増加傾向。

【日本酒の国内出荷数量の推移】



【日本酒の輸出量・輸出金額の推移】



- 酒造好適米の需要が高まる中、酒造好適米は栽培が難しいことに加え、連続して作柄が悪かったこと等から、酒造メーカーの希望に応じた生産ができず、供給不足が続いていた。
- 農林水産省では、平成26年産米から酒造好適米の使用量の増加に対応できるよう、生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直しを行った結果、概ね酒造メーカーの希望に見合った供給が行われた。
- しかし、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したことから、平成27年産では、主食用米より高値で取引されている酒造好適米の作付面積が増加し、更に作柄が良かったこと等から、供給過剰となり、酒造好適米の需給は緩和している状況。

【酒造好適米の生産状況】

(単位:千ト)

	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産
酒造好適米合計	71	65	65	68	76	(4) 90	(7) 107
うち山田錦	21	19	20	21	23	30	39
うち五百万石	20	19	19	19	21	23	26

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注1：27年産は平成28年3月31日現在。

注2：26年産、27年産の（ ）内は、枠外生産分で内数である。



【原料米の使用状況】

(単位:千ト)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産
原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248
酒造好適米	99	75	77	71	65	65	68	76	90
主食用米	165	92	60	54	43	50	57	34	27
加工用米	86	89	74	72	77	71	79	95	105
その他	55	59	50	49	47	52	37	38	26

注1：原料米全体の使用量は国税庁公表値。

注2：内訳は日本酒造組合中央会による推計値。

2 日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会の開催

- 日本酒原料米の需要に応じた生産を確保するため、酒造メーカーの需要状況を踏まえた生産を行う必要がある。
- このため、農林水産省では酒造好適米の生産サイドと需要サイドが情報交換を行い、相互の連携強化を促進するため、「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催。
- 情報交換会では、日本酒原料米の取引の現状やその課題を議論し、「日本酒原料米の安定取引に向けた取りまとめ」（以下「取りまとめ」という。）を策定。

◇ 第1回〔平成28年3月22日(火)開催〕日本酒をとりまく事情

◇ 第2回〔平成28年6月20日(月)開催〕日本酒原料米の安定取引に向けた取りまとめ

【安定取引に向けた今後の取組方向】

複数年契約の拡大に向けた対応

- 複数年契約を拡大することは、生産者サイドにおいては、需要の早期把握による安定生産・安定供給や生産者と実需者との結び付き強化等のメリットがあり、需要に応じた生産が図られれば、価格の安定にもつながる一方、需要者サイドにおいては、今後どれだけ酒が売れるか分からないことから、複数年契約を行うことは、難しい面があるものの、複数年契約に取り組むことにより、将来にわたって、酒造好適米の安定調達が可能となる。
- 各産地毎に、需要者との取引契約のあり方については、これまでの背景や経緯もあることから、各産地及び各酒造メーカーごとの判断により段階的に取り組みを推進してはどうか。

作況変動等に対応する仕組みの構築

- 酒造好適米は、複数年契約等により計画的に作付けを行っても、作況変動等による生産量の増減や需要の急激な増減による過不足を回避することは困難なため、安定供給が図られるよう、生産・需要者双方が連携してランニングストックを確保する体制の構築が必要ではないか。
- 産地ごとに様々な事情があることから、生産者と需要者が協議しつつ、米穀周年供給・需要拡大支援事業の活用等も含め、どういう対応ができるか検討を進めてはどうか。

需要情報の提供体制の構築

- 需要に応じた日本酒原料米の生産を行うことが重要となることから、生産者が酒造好適米の作付判断や種子の確保を行うために参考となる酒造好適米の需要量見通し等を、酒造メーカーの協力も得て国が情報を収集、整理し、生産者に提示。
- なお、国が酒造メーカーに対して行った調査結果は、本情報交換会の下に、日本酒造協同組合連合会原料委員会の委員を中心に構成する「原料部会」を設置し、分析・検討を行った上で、農林水産省ホームページ及び「米に関するマンスリーレポート」等により、産地に情報提供してはどうか。

3 酒造好適米の需要量調査の実施

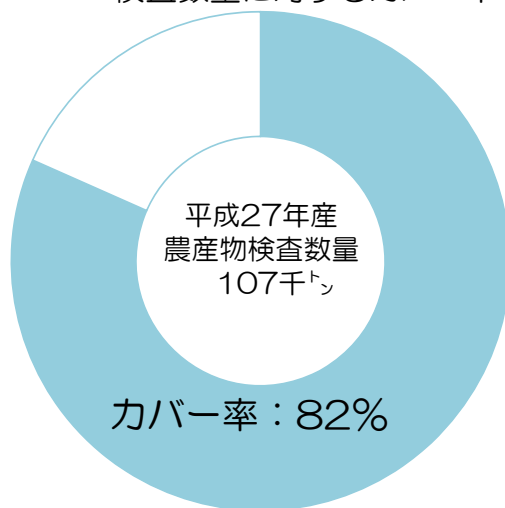
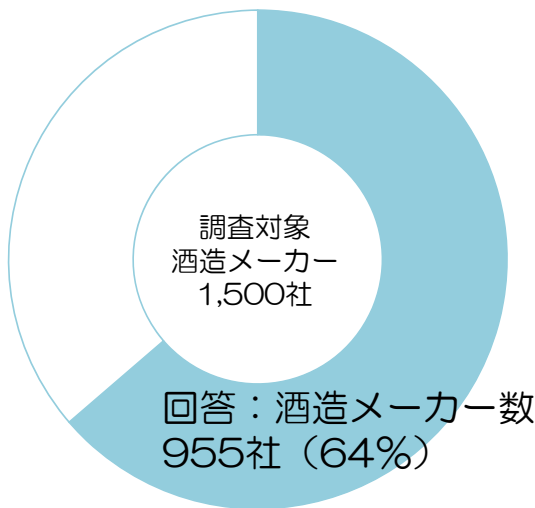
- 安定取引に向けた取りまとめにおける取組の一環として、酒造好適米の需要に応じた生産を実現するため、酒造好適米の需要量調査を以下のとおり実施。

【調査の実施状況】

- 調査内容：平成27～29年産酒造好適米の産地品種銘柄別需要量（実績見込・見込）
- 調査期間：平成28年7月～9月
- 調査対象者：全国の酒造メーカー 1,500社
- 回収状況：回答酒造メーカー数 955社（回収率64%）、数量 87千ト（農産物検査数量に対するカバー率82%）（平成27年産検査数量107千ト）

回答率：酒造メーカー数ベース

回答率：酒造メーカー需要量の農産物
検査数量に対するカバー率



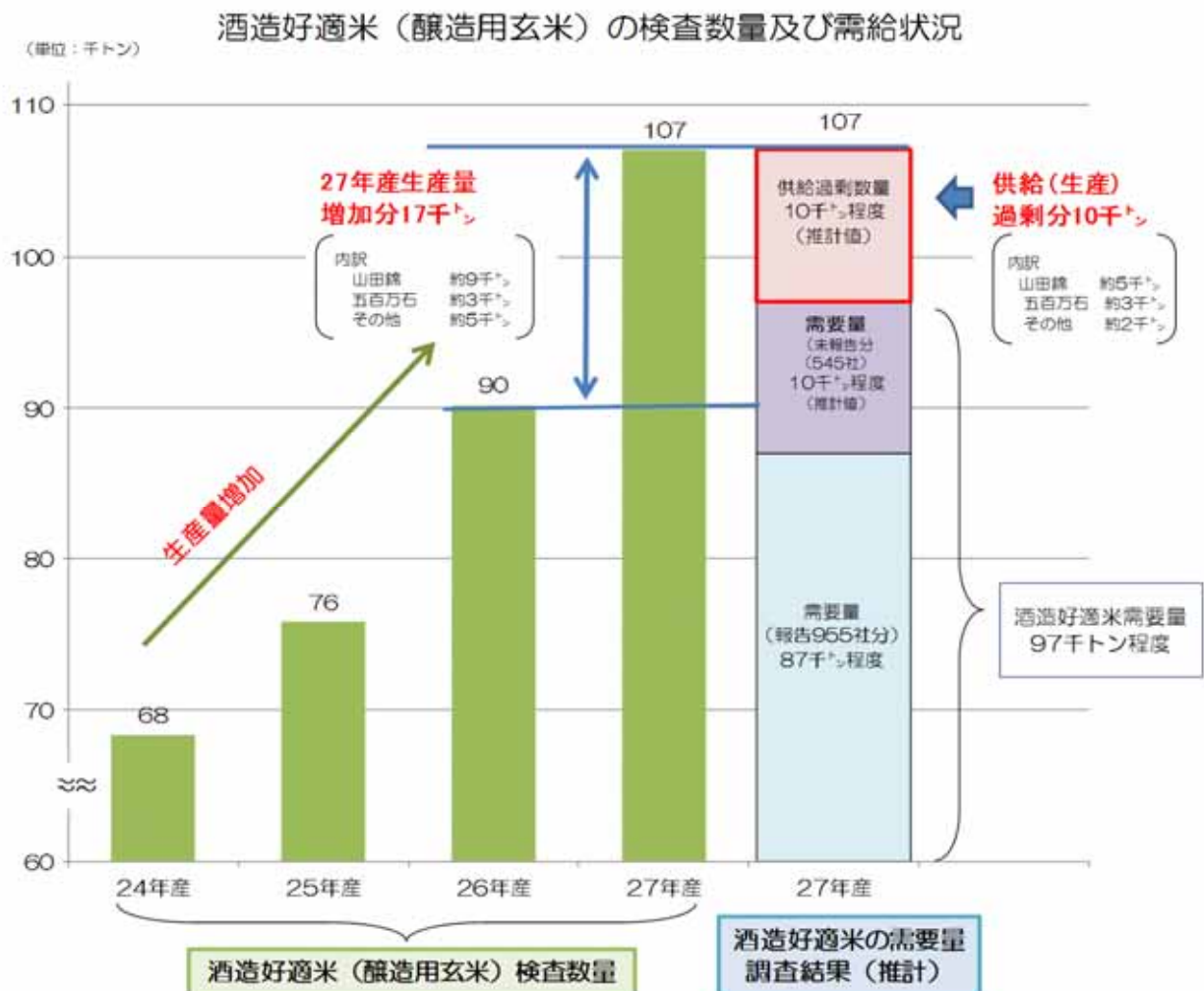
（参考）酒造好適米の需要量調査票

酒造好適米の需要量調査票					
都道府県名：					
会社名：					
（単位：俵/玄米60kg）					
	酒造好適米需要量			備考	
	27年産 購入実績（見込） （玄米ベース）	28年産 購入見込 （玄米ベース）	29年産 購入見込 （玄米ベース）		
合計	俵	俵	俵		
<内訳> （単位：俵/玄米60kg）					
産地	銘柄名	27年産 購入実績（見込） （玄米ベース）	28年産 購入見込 （玄米ベース）	29年産 購入見込 （玄米ベース）	備考
		俵	俵	俵	
		俵	俵	俵	
≈	≈	≈	≈	≈	≈
≈	≈	≈	≈	≈	≈
≈	≈	俵	俵	俵	

4 酒造好適米の需給状況

【酒造好適米の生産量と需要見通し】

- 近年、酒造好適米の生産量（醸造用玄米検査数量）は、生産拡大に向けた取組や生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直し等により毎年増加し、平成27年産は107千トン程度。
- 一方、出荷業者からの聞き取りをもとに供給過剰数量を推計すると、生産量のうち約10千トン程度と見込まれることから、平成27年産需要量は、平成27年産生産量から供給過剰数量を差し引いた97千トン程度と見込まれる。
- 酒造好適米の需要量調査の結果、平成29年産の需要量（見込）は、平成27年産需要量（実績見込）とほぼ同程度となっているが、仮に27年産と同程度の作付けを行った場合、平成27年産においては約10千トンの供給過剰が発生していることから、平成29年産においても同様に供給過剰が発生するおそれがある。



5 酒造好適米の需要量調査結果の分析

【酒造好適米の需要見通し】

今回実施した酒造好適米の需要量調査によれば、酒造好適米の需要見通しは、以下のとおりであるが、平成29年産の作付けにあたっては、本調査結果のほか、平成27年産の需給状況や平成28年産の生産量等を十分に踏まえた対応を行う必要がある。

27年産酒造好適米の需給状況

平成27年産においては、引き続き生産拡大に取り組み、作柄も良かったことから、酒造好適米の生産量が大幅に増加し、酒造メーカーの中には、一部の産地品集銘柄を当初の購入希望数量以上に購入したため、本調査における平成27年産酒造好適米の需要量（実績見込み）は、87千トンとなっている。

28年産酒造好適米の需給状況

現時点において生産量等が把握できないため、見通しは困難であるが、平成27年産において、購入希望数量以上に購入した反動から、平成28年産の購入数量を減らすケースが見られること等から平成28年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成27年産と比較して約2千トン減少する85千トンが見込まれている。

29年産酒造好適米の需給状況

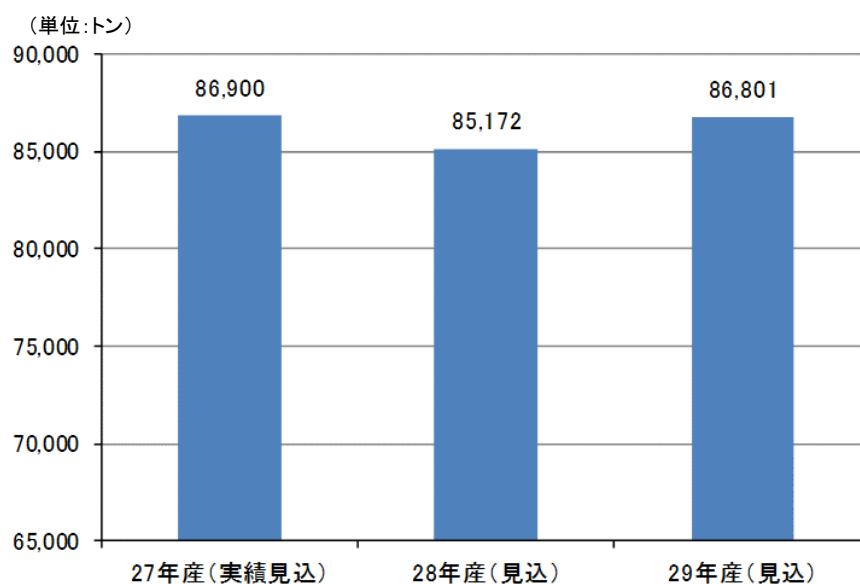
29年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成28年産と比較して約2千トン増加し、87千トンとなり、平成27年産と同水準の値が見込まれている。

【調査結果における需要量の見通し】

- 酒造好適米の需要量調査の結果において、酒造好適米の全体需要量の見通しは、以下のとおり。

27年産（実績見込）	87千トン
28年産（見込）	85千トン（前年差 ▲2千トン）
29年産（見込）	87千トン（前年差 +2千トン）

＜平成27年～29年産酒造好適米の需要量見通し（需要量調査結果）＞



【平成29年産の主な産地品種銘柄の需要状況】

- ・ 主な産地品種銘柄（回答があった193産地品種銘柄）のうち、平成28年産に比べて平成29年産で需要量の増加が見込まれる銘柄は、94銘柄。需要量の減少が見込まれる銘柄は、36銘柄。変動が見込まれない銘柄は、63銘柄。
- ・ このうち、最も増加している銘柄は、兵庫県産山田錦876㍓。最も減少している銘柄は新潟県産五百万石199㍓。それ以外は100㍓未満の増減。
- ・ 各産地においては、平成27年産の需給状況や平成28年産の生産量等を踏まえ、きめ細やかな調整が必要。

平成29年産において需要増加が見込まれる上位10銘柄

順位	産地品種銘柄		29年産 (見込) ①	29年産と28年産との比較		29年産と27年産との比較		28年産 (見込) ②	27年産 (実績見込) ③
				①-②	①/②	①-③	①/③		
1	兵庫	山田錦	24,010	876	104%	731	103%	23,134	23,279
2	長野	美山錦	3,498	97	103%	-194	95%	3,401	3,693
3	北海道	吟風	1,112	96	109%	-35	97%	1,016	1,147
4	岩手	吟ぎんが	644	61	110%	102	119%	583	542
5	山形	出羽燦々	1,561	60	104%	-30	98%	1,502	1,591
6	熊本	華錦	180	47	136%	146	527%	133	34
7	山梨	夢山水	216	44	126%	84	164%	172	132
8	宮城	蔵の華	870	35	104%	35	104%	835	835
9	山口	山田錦	1,330	32	102%	73	106%	1,298	1,257
10	山梨	ひとごち	188	30	119%	61	149%	158	126

平成29年産において需要減少が見込まれる上位10銘柄

順位	産地品種銘柄		29年産 (見込) ①	29年産と28年産との比較		29年産と27年産との比較		28年産 (見込) ②	27年産 (実績見込) ③
				①-②	①/②	①-③	①/③		
1	新潟	五百万石	9,493	-199	98%	-1,905	83%	9,692	11,398
2	富山	五百万石	2,891	-67	98%	-238	92%	2,957	3,129
3	青森	華吹雪	774	-39	95%	-24	97%	813	798
4	北海道	きたしずく	136	-24	85%	-39	78%	160	176
5	岐阜	ひだほまれ	860	-15	98%	217	134%	874	642
6	静岡	山田錦	454	-11	98%	-0	100%	466	455
7	石川	五百万石	1,137	-11	99%	-38	97%	1,148	1,175
8	熊本	神力	65	-10	87%	17	134%	75	48
9	山梨	吟のさと	12	-9	58%	-4	73%	21	16
10	和歌山	五百万石	15	-8	66%	-3	82%	22	18

今回実施した酒造好適米の需要量調査は、

- ① 平成27年産酒造好適米が平成28年産に持ち越される可能性が高いこと
- ② 平成28年産酒造好適米の生産量を現時点では見通せないこと
- ③ 日本酒の製造計画が変更となる可能性があること

等の前提条件下で実施したことから、平成29年産酒造好適米の需要量（見込）は変動する可能性があるため、本年11月をめぐり再度調査を実施し、来年1月までに改めて情報提供を行う。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒原料米をとりまく状況及び酒造好適米の需要量調査結果の概要」を参照ください。

URL：http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/kome_torihiki/seisyu01.html

今の特集②

○ 平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

（平成28年10月28日公表）

- ・ 主食用作付見込面積は138.1万ha（前年産差▲2.5万ha）の見込み
- ・ 10a当たり予想収量は544kg（前年産差＋13kg）の見込み

調査結果の概要

- 1 平成28年産水稻の作付面積（子実用）は147.8万haとなり、前年産に比べ2.7万haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は138.1万haとなり、前年産に比べ2.5万haの減少が見込まれる。
- 2 全国の10a当たり予想収量は544Kgとなり、前年産に比べ13Kgの増加が見込まれる。これは、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたため、全もみ数が一部を除き平年を上回ったことに加え、8月下旬以降が日照不足傾向で経過したものの、登熟はおおむね順調に推移していると見込まれるためである。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は103となる見込み。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は804万4,000tとなり、前年産に比べ5万8,000tの増加が見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は749万8,000tとなり、前年産に比べ5万6,000tの増加が見込まれる。

平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全国農業地域	作付面積（子実用）			10a当たり予想収量		予想収穫量（子実用）			参 考		
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対 差 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対 差	対 比				対 差	対 比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,478,000	△ 27,000	98	544	13	8,044,000	58,000	101	1,381,000	7,498,000	103
北 海 道	105,000	△ 2,800	97	551	△ 8	578,600	△ 24,000	96	99,000	545,500	102
東 北	375,900	△ 5,400	99	576	△ 3	2,165,000	△ 44,000	98	333,700	1,917,000	103
北 陸	205,600	△ 2,200	99	567	36	1,165,000	61,000	106	182,100	1,031,000	107
関 東・東 山	270,500	△ 4,600	98	542	16	1,465,000	18,000	101	259,900	1,407,000	101
東 海	93,400	△ 1,800	98	514	20	480,300	10,100	102	91,400	469,500	102
近 畿	104,500	△ 1,300	99	516	8	538,700	1,500	100	100,500	519,000	102
中 国	106,000	△ 2,100	98	526	23	557,900	14,000	103	102,200	538,500	102
四 国	50,900	△ 1,200	98	492	26	250,500	7,700	103	50,500	248,700	102
九 州	165,700	△ 5,000	97	508	24	841,000	14,200	102	161,300	818,900	101
沖 縄	785	△ 3	100	298	4	2,340	20	101	785	2,340	96

- 注1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 注2 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 注3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。
- 注4 作況指数は、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

調査結果の概要

- 4 10月15日現在におけるふるい目幅別重量分布状況について、地域別にみると、多くの地域で、生育期間を通じておおむね天候に恵まれ登熟が順調であることから、1.85mm以上の玄米の重量割合は直近5年平均値に比べ高くなっている

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、にふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産		単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
平成23年産	10a 当たり収量	kg	533	528	521	509	492	404
24	10a 当たり収量	kg	540	537	531	523	511	441
	収穫量	t	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28 (概数値)	10a 当たり収量	kg	544	541	534	525	512	436
	収穫量	t	8,044,000	7,996,000	7,899,000	7,762,000	7,577,000	6,451,000
	対前年比	%	101	101	101	101	102	104

注：1 ふるい目幅別の収穫量（子実用）については、平成24年産より集計・公表を行っている。

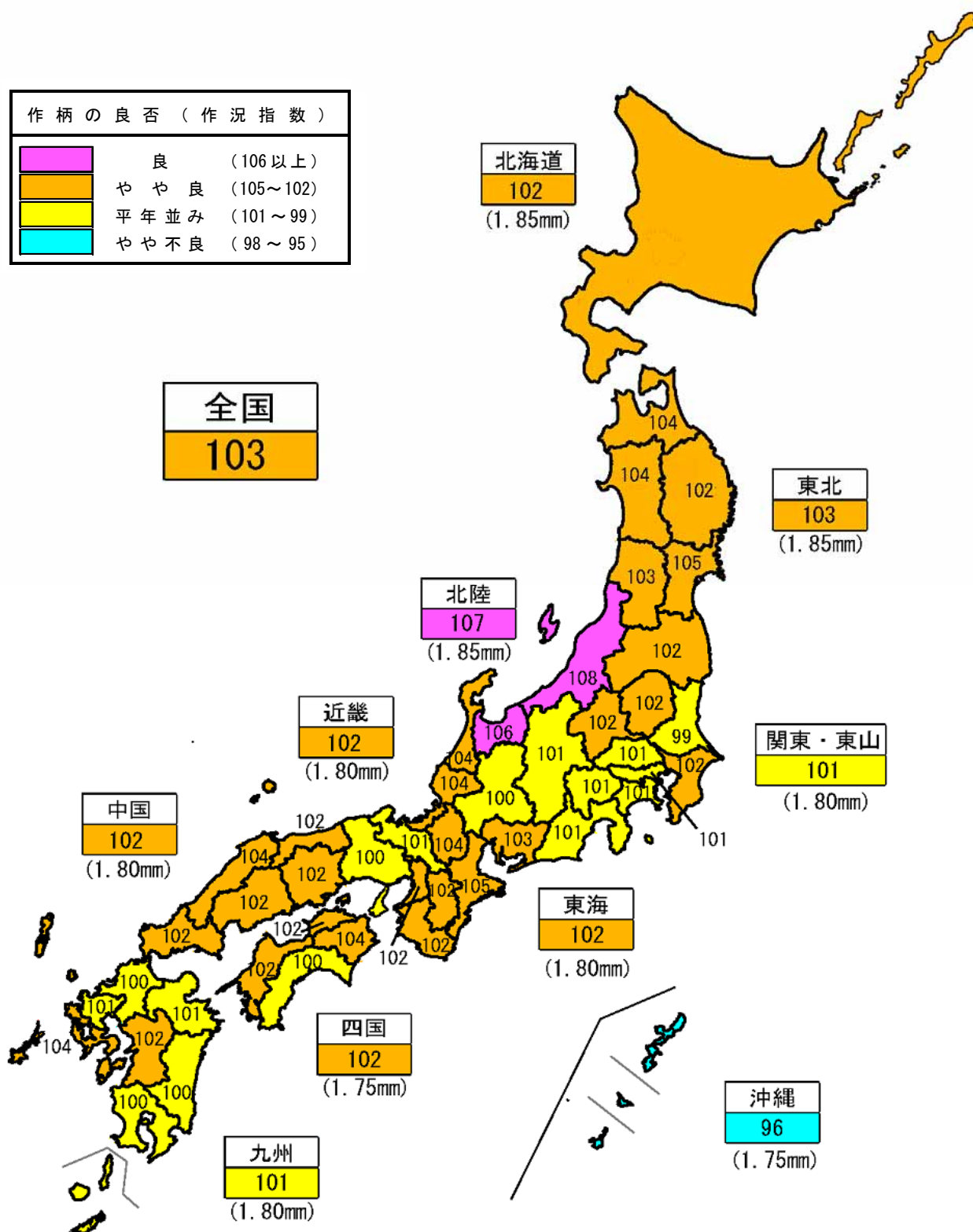
2 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

3 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

- ・ [都道府県別](#)の平成28年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況については、54頁に掲載。
- ・ 「平成28年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y

全国農業地域・都道府県別作況指数（10月15日現在）

【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：1 作況指数は、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

目 次

今月の特集 酒造好適米の需要量調査結果の状況

平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成28年10月分）	1
II	米の需給・契約・販売	
1	主食用米等の需給見通し（米の基本指針（平成28年7月29日）	
(1)	全国の需要実績（速報値）	3
(2)	平成27/28年の需要動向	3
(3)	平成28/29年の需要見通し（推計値）	4
(4)	平成28/29年の需給見通し	4
(5)	民間流通における6月末在庫量の推移	5
(6)	平成28年産政府備蓄米の都道府県別優先枠及び買入入札の結果	7
2	契約・販売情報	
(1)	平成28年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成28年9月末現在）	8
(2)	産地別事前契約数量	11
III	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成22年7月末～平成28年9月末）（速報）	13
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	15
(3)	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 （うるち米、平成28年7月末から平成29年6月末）（速報）	16
IV	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	24
(2)	価格帯別分析結果（平成28年9月）	25
(3)	相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成28年9月分）	26
(4)	スポット価格の状況	29
2	米の先物取引価格の推移	30
V	主食用米以外（輸出を含む）	
1	28年産米の作付状況	
(1)	28年産米の用途別作付面積及び生産量	31
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	31
(3)	新規需要米の用途別認定状況	31
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要 平成26米穀年度（平成25年11月～26年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	32
3	飼料用米の需要量	33
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	35 36
VI	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	37
(2)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	41
(3)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	43
VII	消費動向	
(1)	米の消費動向（米穀機構による調査）	45
(2)	購入数量の推移（家計調査）	46
(3)	消費者物価指数の推移	47
(4)	小売物価統計の推移	48
(5)	小売価格の推移（POSデータ）	49
VIII	MA米（一般・SBS）の動向	
(1)	MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	50
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成28年度）	51
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果（平成27年度）	51
IX	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	52
(2)	平成27年産水稻の作付面積及び収穫量	53
(3)	平成28年産水稻の作付面積及び収穫量（10月15日現在）	54

I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成28年10月分)

- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成28年10月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲5ポイント。いずれも判断基準の50を超えており「締まっている、締まる」との見方は継続。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

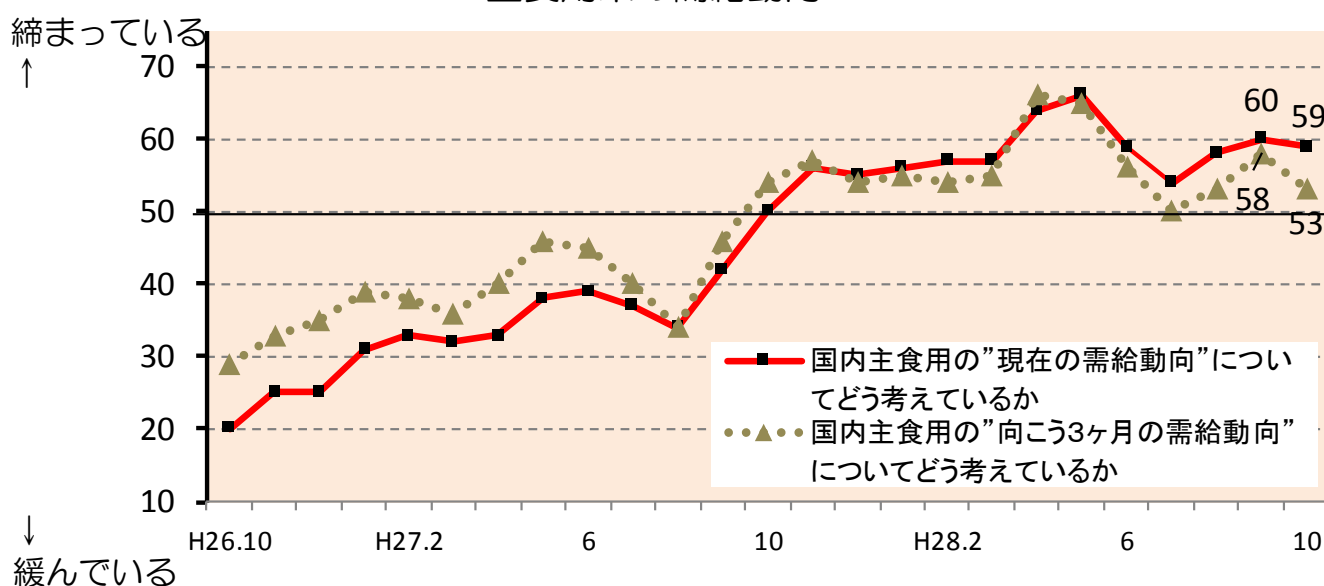
(ア) 現状判断D I

前月からの増減 - 1 (今月の数値 59)

(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)

前月からの増減 - 5 (今月の数値 53)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。

【<http://www.komenet.jp/>】

また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の165客体
- 有効回答数: 134客体
 - 生産者..... 10
 - 集出荷業者/団体..... 26
 - 卸売業者(主に主食用米)..... 24
 - 小売業者/中食・外食業者..... 55
 - その他..... 19

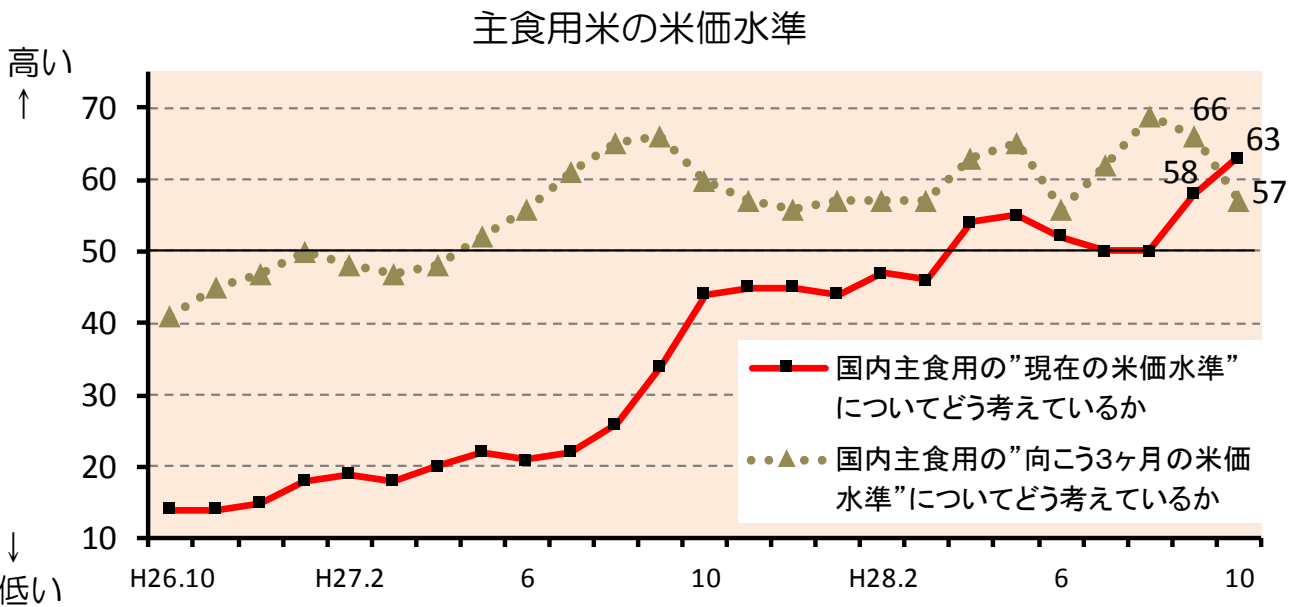
※「その他」は以下の業者です。

- ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
- ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は+5ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は▲9ポイント。見通し判断は、判断基準の50を超えており「米価水準が高くなる」との見方は継続。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I	前月からの増減	+5	(今月の数値 63)
(イ) 見通し判断D I（向こう3ヶ月）	前月からの増減	▲9	(今月の数値 57)



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

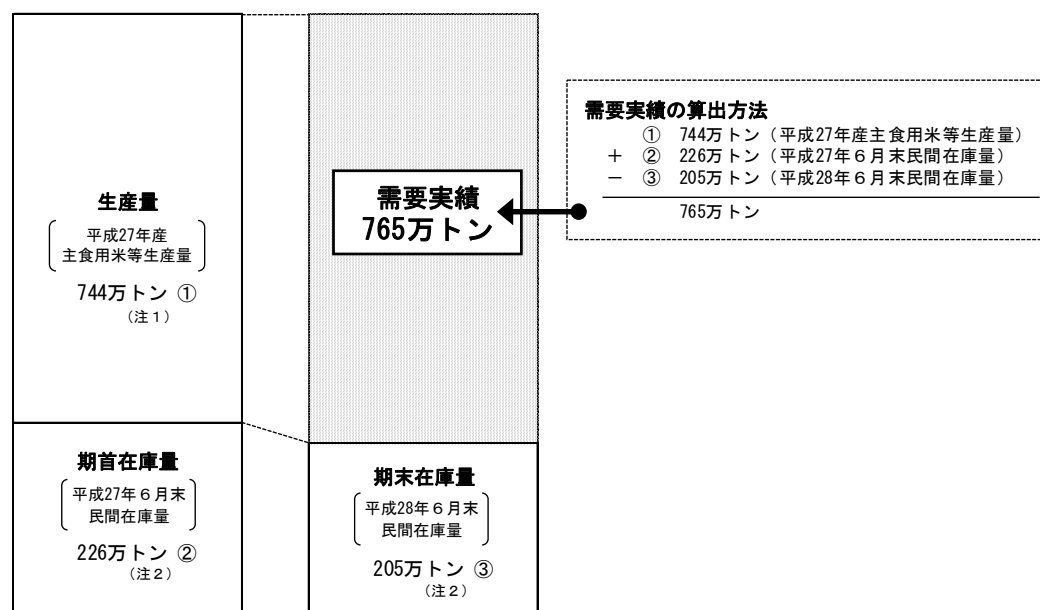
Ⅱ 米の需給・契約・販売

1 主食用米等の需給見通し（米の基本指針(平成28年7月29日)）

（１） 全国の需要実績（速報値）

- 平成27/28年（平成27年7月から平成28年6月までの1年間）の需要実績（速報値）は、図1のとおり765万トン。
- 平成27/28年の需要実績については、平成28年11月末に策定される米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（以下「基本指針」という。）に向けて値を精査。

図1 平成27/28年の需要実績（速報値）



注1：主食用米等生産量は、平成27年産米の水稻収穫量（主食用）（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）。

注2：6月末在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10a以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたものである。

（２） 平成27/28年の需要動向

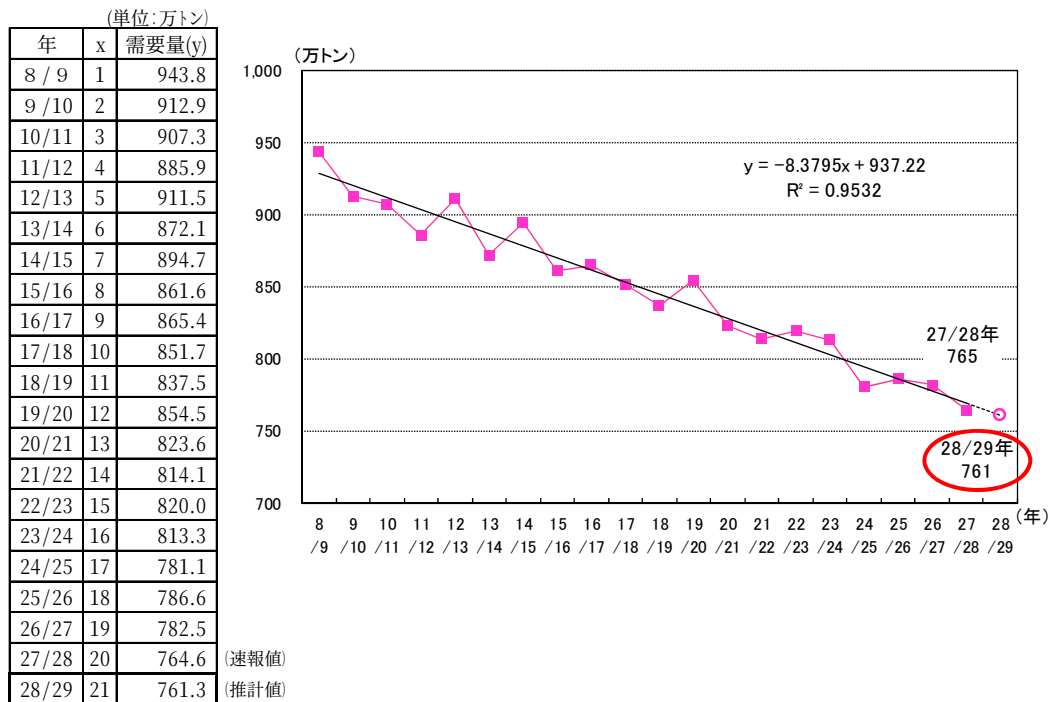
- 平成27/28年の需要量（速報値）は、昨年11月の基本指針で見通した763万トンを2万トン上回る765万トンとなった。これに伴い、平成28年6月末の民間在庫量は、見通し（207万トン）を2万トン下回る205万トンとなった。

<平成27年11月基本指針における見通し>	
平成27/28年主食用米等需要量	763万トン
平成28年6月末民間在庫量	207万トン
↓	
<実績>	
平成27/28年主食用米等需要量	765万トン
平成28年6月末民間在庫量	205万トン

注：平成27/28年の標記は、平成27年7月から翌年6月までの1年間を表します。

(3) 平成28/29年の需要見通し（推計値）

- 平成28/29年の需要見通しについては、平成8/9年から平成27/28年までの需要実績を用いてトレンドで算出し、761万トンと見通す。



(4) 平成28/29年の需給見通し

- 平成28年産の主食用米等生産量は、750万トンと見込まれる（10月15日現在）。
- この生産量を平成28年7月の基本指針で定めた平成28/29年の需給見通しに当てはめると、
 - ① 全体の供給量955万トンに対し、

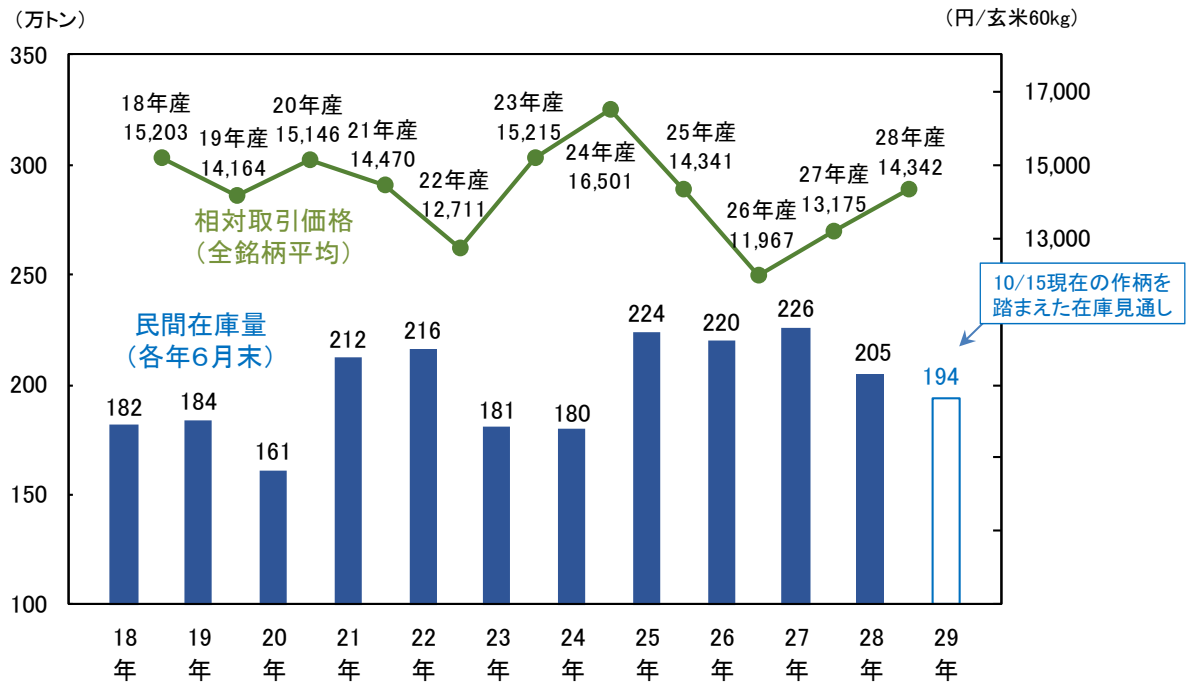
平成28年6月末民間在庫量	205万トン
平成28年産主食用米等生産量	750万トン
 - ② 需要見通しは、761万トン
 - ③ その結果、平成29年6月末の民間在庫量は、対前年比で11万トン少ない194万トンと見通される。

(単位:万トン)

平成28年6月末民間在庫量(速報値)	A	205
平成28年産主食用米等生産量	B	750
平成28/29年主食用米等供給量計	C=A+B	955
平成28/29年主食用等需要量	D	761
平成29年6月末民間在庫量	E=C-D	194

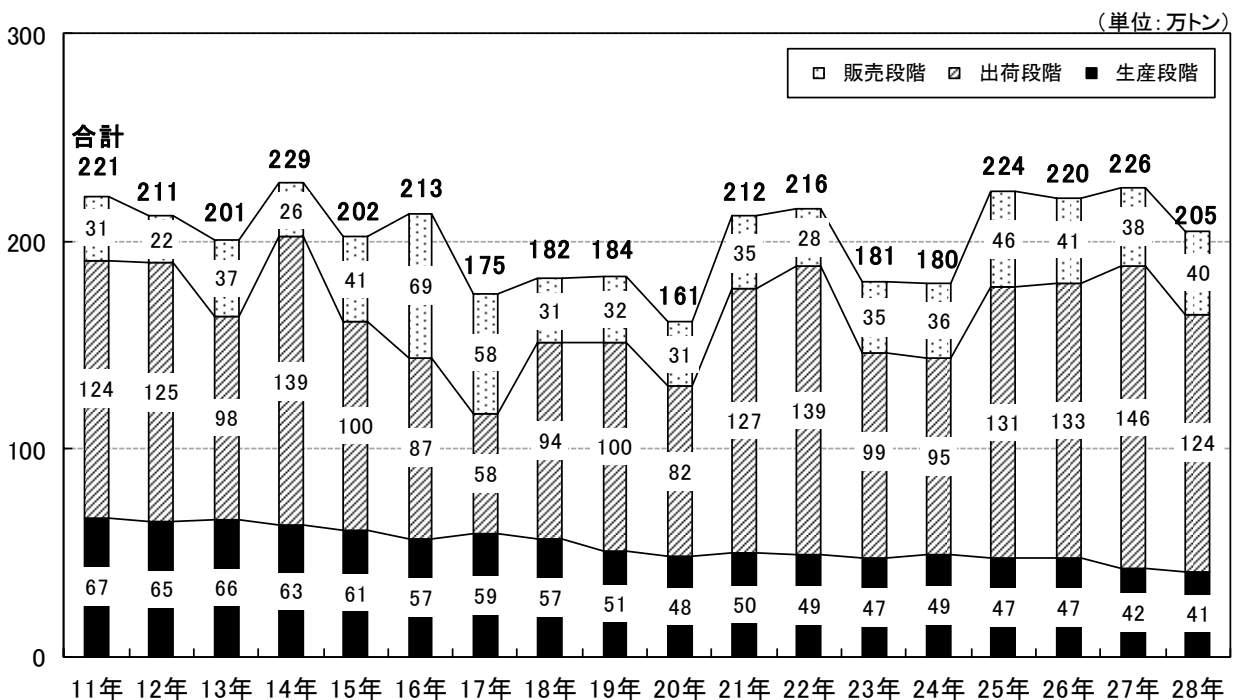
(参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注1：18年産から27年産の相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（27年産は平成28年8月）までの通年平均価格であり、28年産の相対取引価格は、28年9月の値である。
 注2：相対取引価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

(5) 民間流通における6月末在庫量の推移



- 注：1 うち玄米及びもち玄米の値である。
 2 各年の民間在庫量において、
 ① 平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
 ② 平成15年については、販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量、出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
 ③ 平成14年以前については推計値であり、販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量、出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。
 なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。
 3 平成26年の出荷段階の在庫量は、米穀機構の買入数量35万トンを含んでいない。
 4 ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

表 平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	28年産生産数量目標		28年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
全国計	100%	743万トン	140万ha	735万トン	139万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	541,500トン	100,464ha	535,669トン	99,382ha
青森	242,460 / 7,510,000	239,877トン	41,075ha	237,294トン	40,633ha
岩手	271,210 / 7,510,000	268,321トン	50,342ha	265,432トン	49,800ha
宮城	348,620 / 7,510,000	344,906トン	65,077ha	341,193トン	64,376ha
秋田	417,540 / 7,510,000	413,092トン	72,093ha	408,644トン	71,317ha
山形	344,500 / 7,510,000	340,830トン	57,282ha	337,160トン	56,666ha
福島	339,550 / 7,510,000	335,933トン	61,980ha	332,316トン	61,313ha
茨城	337,370 / 7,510,000	333,776トン	63,698ha	330,182トン	63,012ha
栃木	298,690 / 7,510,000	295,508トン	54,724ha	292,326トン	54,134ha
群馬	75,670 / 7,510,000	74,864トン	15,155ha	74,058トン	14,991ha
埼玉	151,270 / 7,510,000	149,659トン	30,543ha	148,047トン	30,214ha
千葉	246,490 / 7,510,000	243,864トン	45,582ha	241,239トン	45,091ha
東京	770 / 7,510,000	762トン	185ha	754トン	183ha
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,247トン	2,890ha	14,093トン	2,859ha
新潟	521,290 / 7,510,000	515,737トン	95,507ha	510,184トン	94,479ha
富山	185,650 / 7,510,000	183,672トン	34,203ha	181,695トン	33,835ha
石川	123,630 / 7,510,000	122,313トン	23,567ha	120,996トン	23,313ha
福井	125,460 / 7,510,000	124,124トン	23,916ha	122,787トン	23,658ha
山梨	27,430 / 7,510,000	27,138トン	4,961ha	26,846トン	4,908ha
長野	194,000 / 7,510,000	191,933トン	30,907ha	189,867トン	30,574ha
岐阜	111,270 / 7,510,000	110,085トン	22,558ha	108,899トン	22,315ha
静岡	82,920 / 7,510,000	82,037トン	15,746ha	81,153トン	15,576ha
愛知	134,970 / 7,510,000	133,532トン	26,338ha	132,094トン	26,054ha
三重	143,510 / 7,510,000	141,981トン	28,396ha	140,453トン	28,091ha
滋賀	160,450 / 7,510,000	158,741トン	30,645ha	157,032トン	30,315ha
京都	75,930 / 7,510,000	75,121トン	14,701ha	74,312トン	14,542ha
大阪	26,220 / 7,510,000	25,941トン	5,241ha	25,661トン	5,184ha
兵庫	180,440 / 7,510,000	178,518トン	35,420ha	176,596トン	35,039ha
奈良	41,690 / 7,510,000	41,246トン	8,040ha	40,802トン	7,954ha
和歌山	34,850 / 7,510,000	34,479トン	6,965ha	34,108トン	6,891ha
鳥取	66,110 / 7,510,000	65,406トン	12,725ha	64,702トン	12,588ha
島根	90,000 / 7,510,000	89,041トン	17,493ha	88,083トン	17,305ha
岡山	158,550 / 7,510,000	156,861トン	29,821ha	155,172トン	29,500ha
広島	129,970 / 7,510,000	128,585トン	24,586ha	127,201トン	24,321ha
山口	108,760 / 7,510,000	107,601トン	21,349ha	106,443トン	21,120ha
徳島	58,540 / 7,510,000	57,916トン	12,219ha	57,293トン	12,087ha
香川	70,240 / 7,510,000	69,492トン	13,926ha	68,744トン	13,776ha
愛媛	73,920 / 7,510,000	73,133トン	14,685ha	72,345トン	14,527ha
高知	50,070 / 7,510,000	49,537トン	10,769ha	49,003トン	10,653ha
福岡	182,470 / 7,510,000	180,526トン	36,178ha	178,582トン	35,788ha
佐賀	138,420 / 7,510,000	136,945トン	26,386ha	135,471トン	26,102ha
長崎	62,850 / 7,510,000	62,180トン	12,981ha	61,511トン	12,842ha
熊本	189,310 / 7,510,000	187,293トン	36,368ha	185,277トン	35,976ha
大分	117,690 / 7,510,000	116,436トン	23,148ha	115,183トン	22,899ha
宮崎	93,600 / 7,510,000	92,603トン	18,632ha	91,606トン	18,432ha
鹿児島	111,070 / 7,510,000	109,887トン	22,751ha	108,704トン	22,506ha
沖縄	2,860 / 7,510,000	2,830トン	916ha	2,799トン	906ha

注1：米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（平成26年11月）において、平成27年産米の都道府県別のシェアを固定し、当該シェアで按分して平成28年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値とする旨を公表済み。

注2：端数処理の結果、合計値は一致しない。

(6) 平成28年産政府備蓄米の都道府県別優先枠及び買入入札の結果

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果 落札数量				28年産 落札合計数量
		第1回 平成28年 1月29日実施	第2回 2月10日実施	第3回 2月23日実施	第4回 3月8日実施	
北海道	11,757	0	11,757	0		11,757
青森	17,177	17,177	0	0		17,177
岩手	7,200	7,200	0	0		7,200
宮城	9,900	368	9,532	0		9,900
秋田	21,343	21,343	0	0		21,343
山形	12,707	12,707	0	0		12,707
福島	20,000	19,459	541	0		20,000
茨城	990	229	761	0		990
栃木	7,470	2,817	3,954	0		6,771
群馬	10	10	0	0		10
埼玉	432	432	0	0		432
千葉	1,100	1,100	0	0		1,100
東京						
神奈川						
新潟	22,133	22,133	0	0		22,133
富山	9,822	9,822	0	0		9,822
石川	3,970	30	3,940	0		3,970
福井	1,985	160	1,825	0		1,985
山梨						
長野	655	655	0	0		655
岐阜	495	10	485	0		495
静岡	33	0	33	0		33
愛知	724	0	723	0		723
三重	542	542	0	0		542
滋賀	1,099	123	976	0		1,099
京都						
大阪						
兵庫	217	30	0	0		30
奈良						
和歌山						
鳥取	883	10	873	0		883
島根	71	71	0	0		71
岡山	2,133	2,133	0	0		2,133
広島	201	0	0	0		0
山口	227	0	0	0		0
徳島	555	10	488	57		555
香川						
愛媛	241	10	57	12		79
高知	15	0	0	15		15
福岡	219	10	209	0		219
佐賀	539	0	539	0		539
長崎	30	0	30	0		30
熊本	408	0	61	347		408
大分	220	220	0	0		220
宮崎						
鹿児島						
沖縄						
都道府県別枠計	157,500	118,811	36,784	431		156,026
指定無し	67,500	67,500	0	0	1,474	68,974
合計	225,000	186,311	36,784	431	1,474	225,000

2 契約・販売情報

(1) 平成28年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米、平成28年9月末現在)

28年産米の「契約比率」及び「販売比率」(集荷数量に対する進捗状況)については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量(北海道から千葉まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(玄米千トン)	(玄米千トン)	(玄米千トン)	(%)	(%)	(%)
北海道	50.0	174.1	6.4	+ 4%	+ 13%	+ 12%
(ななつぼし)	24.8	97.4	2.6	+ 21%	+ 23%	+ 15%
(ゆめびりか)	18.3	36.5	1.7	▲ 9%	+ 19%	+ 1%
(きらら397)	0.9	21.8	0.0	▲ 11%	▲ 27%	▲ 84%
青森	21.4	52.3	1.0	+ 38%	+ 12%	+ 171%
(まっしぐら)	6.2	31.4	0.2	+ 51%	▲ 12%	+ 104%
(つがるロマン)	10.0	16.1	0.3	+ 13%	+ 61%	+ 161%
岩手	9.8	91.8	0.7	+ 36%	+ 29%	+ 169%
(ひとめぼれ)	8.3	71.6	0.6	+ 32%	+ 25%	+ 138%
(あきたこまち)	0.6	15.3	—	+ 35%	+ 19%	▲ 100%
(いわてっこ)	0.2	1.8	—	+ 18%	+ 50%	…
宮城	27.3	113.6	1.6	▲ 31%	+ 6%	▲ 3%
(ひとめぼれ)	24.0	99.3	1.5	▲ 31%	+ 10%	▲ 2%
(ササニシキ)	1.8	5.2	0.1	▲ 35%	+ 24%	+ 11%
(つや姫)	0.2	7.0	—	▲ 16%	+ 17%	▲ 100%
秋田	62.8	86.2	4.1	+ 5%	▲ 2%	+ 24%
(あきたこまち)	59.8	77.0	4.0	+ 4%	+ 5%	+ 24%
(めんこいな)	0.6	2.1	—	+ 18%	▲ 42%	▲ 100%
(ひとめぼれ)	1.1	4.5	—	+ 69%	▲ 15%	▲ 100%
山形	28.1	47.3	1.3	▲ 2%	+ 34%	▲ 1%
(はえぬき)	16.8	23.4	0.6	▲ 6%	+ 84%	▲ 6%
(つや姫)	0.9	13.9	0.2	+ 273%	+ 58%	+ 194%
(ひとめぼれ)	5.2	7.0	0.3	+ 3%	▲ 28%	▲ 6%
福島	8.2	55.9	0.3	▲ 8%	+ 53%	▲ 18%
(コシヒカリ中通り)	0.2	5.1	0.0	▲ 69%	+ 460%	+ 0%
(コシヒカリ会津)	1.8	30.5	0.0	+ 30%	+ 41%	+ 2480%
(コシヒカリ浜通り)	0.2	4.8	0.0	▲ 35%	+ 579%	+ 68%
(ひとめぼれ)	3.1	12.4	0.0	▲ 41%	+ 14%	▲ 80%
(天のつぶ)	0.3	1.0	0.0	▲ 10%	▲ 32%	…
茨城	45.7	43.2	5.9	▲ 4%	▲ 27%	+ 5%
(コシヒカリ)	34.4	32.9	2.5	▲ 2%	▲ 33%	▲ 9%
(あきたこまち)	8.0	8.8	3.1	▲ 14%	+ 3%	+ 25%
(ゆめひたち)	0.1	0.0	—	▲ 27%	▲ 85%	▲ 100%
栃木	55.4	66.7	1.5	▲ 24%	▲ 5%	▲ 82%
(コシヒカリ)	50.2	62.1	1.3	▲ 23%	+ 5%	▲ 80%
(あさひの夢)	0.2	1.8	—	▲ 69%	▲ 57%	▲ 100%
(なすひかり)	3.6	1.3	0.1	▲ 27%	▲ 63%	▲ 90%
群馬	0.4	0.0	0.0	▲ 14%	…	…
(あさひの夢)	0.1	—	—	▲ 50%	…	…
(ゆめまつり)	0.0	—	—	▲ 15%	…	…
埼玉	5.0	7.7	0.1	+ 13%	+ 31%	+ 51%
(彩のかがやき)	0.0	3.8	—	…	+ 27%	…
(コシヒカリ)	4.9	3.6	0.1	+ 19%	+ 97%	+ 6%
(彩のきずな)	0.5	0.6	—	…	…	…
千葉	70.5	51.6	14.1	▲ 15%	▲ 6%	▲ 6%
(コシヒカリ)	39.2	30.2	6.2	▲ 12%	+ 2%	+ 25%
(ふさこがね)	13.1	10.1	1.9	▲ 15%	+ 6%	+ 10%
(ふさおとめ)	15.1	10.2	5.5	▲ 20%	▲ 24%	▲ 26%

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上)である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結(確認書等により数量のみが決定した契約を含む。)した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「—」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないもの。

9 「参考: 前年同月比」の「…」は、27年産では調査の対象銘柄でなかったこと等から、28年産との比較が出来ないもの。

集荷・契約・販売数量（東京から鳥取まで）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (27年度の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(玄米千ト)	(玄米千ト)	(玄米千ト)	(%)	(%)	(%)
東 京	—	—	—	…	…	…
神奈川	0.1	0.0	0.0	▲ 47%	…	…
山 梨	0.6	—	—	+ 39%	…	…
(コシヒカリ)	0.4	—	—	+ 28%	…	…
(あさひの夢)	—	—	—	…	…	…
長 野	13.2	28.2	1.0	+ 7%	+ 13%	+ 19%
(コシヒカリ)	10.3	21.4	0.6	+ 10%	+ 11%	+ 30%
(あきたこまち)	0.8	3.6	0.2	▲ 22%	+ 75%	+ 11%
静 岡	5.8	0.8	0.8	+ 6%	▲ 7%	▲ 7%
(コシヒカリ)	5.1	0.7	0.7	+ 4%	▲ 7%	▲ 7%
(きぬむすめ)	0.4	0.0	0.0	+ 47%	…	…
(あいちのかおり)	0.0	—	—	…	…	…
新 潟	167.4	166.0	13.7	+ 24%	+ 3%	+ 13%
(コシヒカリ一般)	102.6	94.8	5.6	+ 34%	+ 11%	+ 5%
(コシヒカリ魚沼)	9.9	9.7	1.3	+ 33%	▲ 11%	+ 13%
(コシヒカリ岩船)	3.5	10.1	0.5	+ 60%	▲ 2%	+ 44%
(コシヒカリ佐渡)	5.1	12.8	0.8	+ 48%	+ 4%	+ 68%
(こしいぶき)	30.2	25.5	3.6	▲ 2%	▲ 11%	+ 5%
富 山	67.5	49.0	5.3	+ 15%	+ 41%	▲ 15%
(コシヒカリ)	54.8	41.1	4.0	+ 15%	+ 47%	▲ 13%
(てんたかく)	7.9	4.3	1.0	+ 10%	+ 3%	▲ 29%
石 川	26.1	26.2	0.4	+ 7%	+ 70%	▲ 4%
(コシヒカリ)	17.3	17.8	0.3	+ 19%	+ 85%	+ 9%
(ゆめみづぼ)	6.4	7.3	0.1	▲ 15%	+ 50%	+ 28%
福 井	34.5	16.1	5.3	+ 32%	+ 12%	▲ 5%
(コシヒカリ)	13.0	6.0	1.6	+ 38%	▲ 3%	▲ 22%
(ハナエチゼン)	16.3	6.1	3.4	+ 27%	+ 6%	+ 0%
岐 阜	5.9	13.4	1.9	+ 14%	+ 25%	+ 39%
(ハツシモ)	—	6.4	—	…	+ 44%	…
(コシヒカリ)	2.6	2.4	0.2	+ 32%	+ 3%	+ 51%
(あきたこまち)	1.8	1.7	1.3	▲ 15%	▲ 2%	+ 31%
愛 知	8.7	15.9	2.2	+ 5%	+ 142%	+ 2%
(あいちのかおり)	0.0	6.5	—	+ 1116%	…	…
(コシヒカリ)	6.5	7.5	1.0	+ 3%	+ 27%	▲ 29%
(大地の風)	0.0	0.5	0.0	▲ 97%	…	…
三 重	22.0	17.7	2.4	+ 13%	+ 0%	▲ 9%
(コシヒカリ一般)	13.8	10.0	1.3	+ 17%	+ 0%	▲ 11%
(コシヒカリ伊賀)	4.1	3.8	0.5	+ 14%	▲ 1%	+ 0%
(キヌヒカリ)	1.5	0.9	0.0	▲ 6%	▲ 11%	▲ 74%
滋 賀	32.9	56.5	4.5	+ 12%	+ 27%	+ 26%
(コシヒカリ)	12.9	24.4	1.4	+ 6%	+ 55%	▲ 13%
(キヌヒカリ)	7.2	10.6	0.8	+ 13%	+ 13%	+ 39%
(日本晴)	1.7	2.4	0.1	+ 59%	▲ 35%	+ 91%
京 都	4.0	9.0	0.5	▲ 18%	+ 32%	+ 10%
(コシヒカリ)	2.8	6.0	0.4	▲ 27%	+ 52%	+ 9%
(キヌヒカリ)	1.1	2.6	0.1	+ 18%	+ 2%	▲ 5%
大 阪	—	—	—	…	…	…
兵 庫	14.8	15.3	1.1	+ 21%	▲ 3%	▲ 24%
(コシヒカリ)	11.3	1.5	0.7	+ 27%	+ 9%	▲ 29%
(ヒノヒカリ)	—	—	—	…	…	…
(キヌヒカリ)	1.9	0.1	0.1	+ 31%	▲ 41%	▲ 27%
奈 良	1.0	1.0	0.2	+ 39%	…	…
(ヒノヒカリ)	0.0	0.0	—	+ 0%	…	…
(コシヒカリ)	0.4	0.4	0.1	+ 62%	…	…
和歌山	1.0	1.7	0.0	+ 31%	+ 12%	▲ 15%
鳥 取	1.7	6.2	0.5	▲ 46%	▲ 5%	▲ 40%
(コシヒカリ)	0.6	1.5	0.1	▲ 60%	▲ 23%	▲ 77%
(きぬむすめ)	—	2.0	—	…	+ 81%	…
(ひとめぼれ)	1.1	2.6	0.4	▲ 33%	▲ 25%	+ 4%

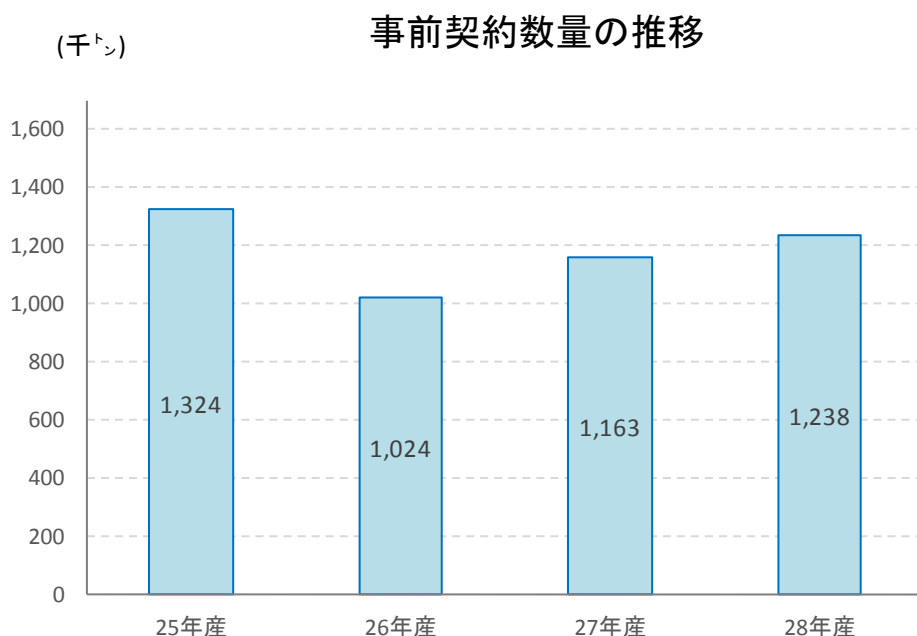
集荷・契約・販売数量（島根から沖縄まで、全国計）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考：前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(玄米千トン)	(玄米千トン)	(玄米千トン)	(%)	(%)	(%)
島 根	14.6	28.5	1.6	+ 25%	+ 44%	▲ 5%
（コシヒカリ）	11.8	14.9	1.1	+ 44%	+ 62%	+ 14%
（きぬむすめ）	1.0	11.4	0.1	+ 102%	+ 84%	+ 1239%
（つや姫）	2.2	3.6	0.2	...	...	...
岡 山	1.0	2.7	0.4	▲ 37%	+ 52%	▲ 15%
（アケボノ）	-	0.1	-	...	▲ 79%	...
（あきたこまち）	0.4	1.2	0.2	▲ 50%	+ 66%	+ 19%
（ヒノヒカリ）	-	-	-	...	...	...
広 島	13.3	28.0	1.3	+ 28%	▲ 4%	▲ 5%
（コシヒカリ）	9.5	14.0	0.9	+ 29%	+ 7%	▲ 6%
（あきろまん）	0.1	3.5	0.0	+ 91%	▲ 17%	+ 15%
（ヒノヒカリ）	0.0	2.1	-	+ 0%	▲ 23%	...
山 口	11.5	24.5	0.9	+ 23%	+ 6%	+ 7%
（コシヒカリ）	5.9	8.0	0.6	+ 9%	+ 1%	▲ 4%
（ひとめぼれ）	4.9	5.4	0.3	+ 36%	+ 1%	+ 49%
（ヒノヒカリ）	0.0	5.7	-	...	+ 5%	...
徳 島	5.6	1.8	1.2	+ 16%	+ 74%	+ 19%
（コシヒカリ）	3.4	1.1	0.8	+ 6%	+ 46%	+ 8%
（キヌヒカリ）	1.6	0.4	0.2	+ 39%	+ 3530%	+ 1430%
香 川	4.9	12.9	0.7	+ 23%	+ 6%	+ 9%
（ヒノヒカリ）	0.0	5.6	-	...	▲ 6%	...
（コシヒカリ）	4.7	4.4	0.7	+ 22%	+ 12%	+ 7%
愛 媛	5.1	1.0	0.8	+ 26%	+ 10%	+ 6%
（コシヒカリ）	4.1	0.7	0.7	+ 21%	▲ 4%	+ 6%
（ヒノヒカリ）	-	-	-	▲ 100%	...	...
（あきたこまち）	0.9	0.2	0.2	+ 63%	▲ 12%	+ 1%
高 知	5.9	2.7	2.3	+ 5%	+ 15%	+ 22%
（コシヒカリ）	5.1	1.8	1.8	+ 8%	+ 33%	+ 32%
（ヒノヒカリ）	0.0	-	-	+ 0%	...	...
福 岡	6.3	31.8	1.5	+ 43%	+ 16%	+ 65%
（夢つくし）	5.8	10.0	1.5	+ 42%	+ 11%	+ 57%
（ヒノヒカリ）	-	10.1	-	...	+ 25%	...
（元氣つくし）	0.1	11.2	-	+ 452%	+ 16%	...
佐 賀	4.7	16.2	1.5	+ 16%	▲ 34%	+ 10%
（さがびより）	-	4.4	-	...	▲ 41%	...
（夢しずく）	1.7	5.6	0.5	+ 53%	▲ 28%	+ 45%
（ヒノヒカリ）	-	4.8	-	...	▲ 24%	...
長 崎	1.7	0.4	0.3	+ 11%	+ 12%	+ 0%
（にこまる）	-	-	-	...	...	...
（ヒノヒカリ）	-	-	-	...	...	...
（コシヒカリ）	1.2	0.3	0.2	+ 9%	+ 7%	+ 1%
熊 本	4.7	2.7	1.8	+ 2%	▲ 90%	▲ 22%
（ヒノヒカリ）	0.1	0.1	-	...	▲ 98%	...
（森のくまさん）	-	-	-	...	...	...
（コシヒカリ）	3.7	2.0	1.3	+ 1%	▲ 73%	▲ 18%
大 分	0.8	0.5	0.2	+ 10%	▲ 16%	▲ 45%
（ヒノヒカリ）	-	-	-	...	...	...
（ひとめぼれ）	0.1	0.0	0.0	+ 22%	+ 64%	...
宮 崎	9.8	9.8	9.7	+ 7%	+ 7%	+ 7%
（コシヒカリ）	9.4	9.4	9.3	+ 7%	+ 7%	+ 6%
（ヒノヒカリ）	-	-	-	...	...	...
鹿児島	5.1	5.1	5.0	+ 5%	+ 5%	+ 11%
（ヒノヒカリ）	-	-	-	...	...	...
（あきほなみ）	-	-	-	...	...	...
（コシヒカリ）	3.4	3.4	3.3	+ 7%	+ 7%	+ 6%
沖 縄	1.4	1.4	1.3	+ 5%	+ 5%	+ 4%
全 国 ①	907	1,402	122	+ 7%	+ 10%	+ 10%
参 考	前年同月(27年産)②	848	1,278	111		
	前年同月差(①-②)	59	124	11		

(2) 産地別事前契約数量

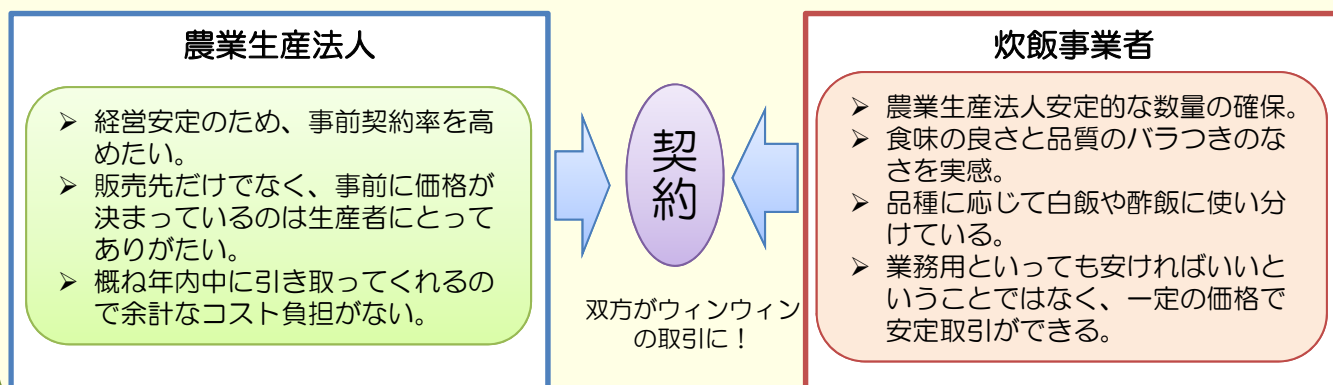
- 事前契約数量は、平成27年産以降は2年続けて増加、平成28年産米（9月末現在）では、前年産に比べ7.5万トン多い124万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕



生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。



産地別事前契約数量(累計、うるち米、平成28年9月末現在)(速報)

	25年産			26年産			27年産(平成28年8月末現在)			28年産(平成28年9月末現在)	
	集荷 数量 ①	うち事前 契約分 ②	事前契約 比率 ②/①	集荷 数量 ③	うち事前 契約分 ④	事前契約 比率 ④/③	集荷 数量 ⑤	うち事前 契約分 ⑥	事前契約 比率 ⑥/⑤	集荷 数量	うち事前 契約分
北海道	389.9	167.0	43%	398.0	161.0	40%	397.5	150.0	38%	50.0	166.9
青森	165.1	46.9	28%	169.6	26.1	15%	149.1	45.8	31%	21.4	51.4
岩手	148.8	82.3	55%	150.2	47.7	32%	156.0	70.9	45%	9.8	91.1
宮城	196.2	141.7	72%	216.3	111.3	51%	181.4	108.6	60%	27.3	112.0
秋田	319.5	102.6	32%	303.9	68.5	23%	277.6	80.1	29%	62.8	83.4
山形	259.0	56.9	22%	242.7	52.8	22%	213.7	50.4	24%	28.1	46.1
福島	173.9	27.9	16%	153.3	20.0	13%	146.3	32.0	22%	8.2	51.7
茨城	107.8	39.0	36%	109.8	46.0	42%	81.5	44.5	55%	45.7	37.1
栃木	191.8	43.1	22%	184.0	36.8	20%	142.0	61.2	43%	55.4	64.5
群馬	26.9	-	-	26.3	-	-	18.9	-	-	0.4	-
埼玉	23.1	5.9	25%	28.5	3.2	11%	21.8	5.8	27%	5.5	8.2
千葉	111.0	20.0	18%	123.8	31.3	25%	95.5	41.3	43%	70.5	31.8
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.1	-	-	2.4	-	-	2.7	-	-	0.1	-
山梨	6.3	-	-	5.9	-	-	6.0	-	-	0.6	-
長野	77.8	42.0	54%	69.9	22.0	31%	69.0	21.5	31%	13.2	26.3
静岡	7.9	-	-	10.2	-	-	9.6	-	-	5.8	-
新潟	306.0	144.4	47%	292.4	122.3	42%	258.1	144.8	56%	167.4	139.3
富山	111.6	53.8	48%	111.6	36.2	32%	106.5	29.5	28%	67.5	43.7
石川	38.2	29.4	77%	36.6	14.2	39%	33.2	14.0	42%	26.1	18.6
福井	72.0	56.3	78%	65.2	7.8	12%	65.2	7.3	11%	34.5	6.8
岐阜	39.6	17.0	43%	34.4	15.3	44%	28.8	9.5	33%	5.9	12.0
愛知	43.5	7.8	18%	41.1	-	-	35.8	10.6	30%	8.7	15.1
三重	39.0	20.0	51%	31.3	15.9	51%	31.3	16.5	53%	22.0	17.3
滋賀	77.2	40.6	53%	67.2	25.7	38%	63.8	38.6	61%	32.9	48.4
京都	17.3	8.0	46%	15.5	7.2	47%	13.8	6.1	44%	4.0	8.1
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	42.6	-	-	41.1	-	-	42.8	-	-	14.8	-
奈良	8.6	-	-	9.7	-	-	10.0	-	-	1.0	-
和歌山	1.3	1.3	98%	1.4	1.4	99%	1.8	1.5	86%	1.0	1.7
鳥取	29.0	10.6	37%	27.0	6.9	25%	22.0	5.7	26%	1.7	6.1
島根	39.3	21.8	56%	43.5	11.3	26%	37.9	18.7	49%	16.8	31.9
岡山	31.9	-	-	30.1	10.0	33%	20.4	-	-	1.0	-
広島	41.6	1.9	5%	36.9	1.9	5%	33.8	24.5	72%	13.3	27.0
山口	42.9	22.9	53%	37.0	20.5	55%	34.7	22.9	66%	11.5	24.3
徳島	14.3	-	-	10.3	-	-	5.3	-	-	5.6	-
香川	31.7	19.1	60%	28.3	13.2	46%	24.9	12.2	49%	4.9	12.9
愛媛	15.2	-	-	14.6	-	-	13.8	-	-	5.1	-
高知	8.8	-	-	7.6	-	-	6.0	1.2	20%	5.9	1.1
福岡	54.2	25.7	47%	56.9	25.0	44%	54.8	27.3	50%	6.3	30.3
佐賀	40.8	23.8	58%	42.7	23.8	56%	45.6	23.9	53%	4.7	15.0
長崎	11.6	-	-	10.9	-	-	12.3	-	-	1.7	-
熊本	49.3	23.9	48%	45.1	22.9	51%	39.3	21.3	54%	4.7	-
大分	18.6	1.6	9%	17.9	1.0	5%	15.4	1.1	7%	0.8	-
宮崎	23.0	18.7	81%	20.8	14.7	71%	15.2	13.2	87%	9.8	8.4
鹿児島	21.9	-	-	19.0	-	-	14.5	-	-	5.1	-
沖縄	1.7	-	-	1.7	-	-	1.6	-	-	1.4	-
全 国	3,520	1,324	38%	3,436	1,024	30%	3,101	1,163	37%	907	1,238

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 25年産及び26年産は生産年の翌年10月末時点、27年産は28年8月末時点、28年産は28年9月末時点の数量である。

4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

7 「-」は、集荷数量や事前契約に該当がないもの。

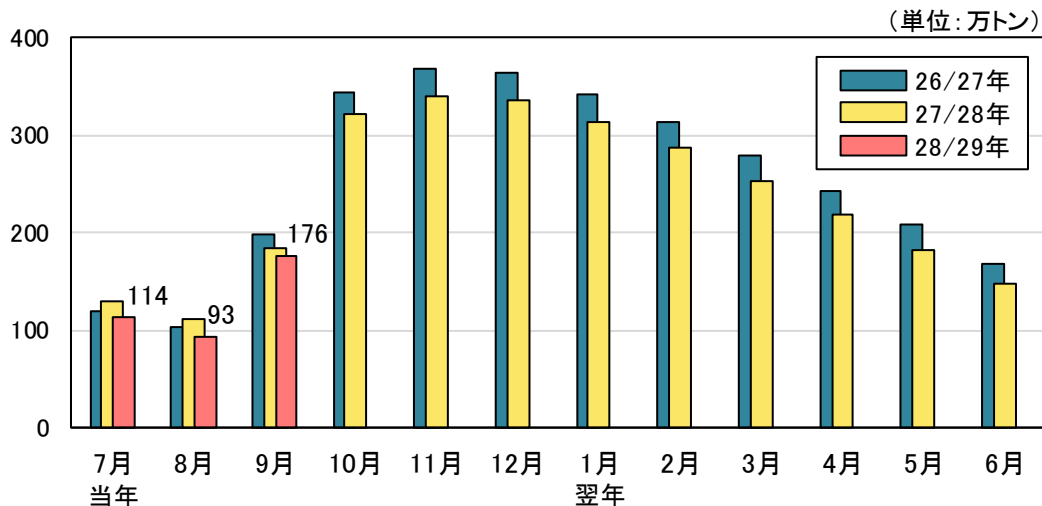
Ⅲ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成22年7月末～平成28年9月末）（速報）

- 平成28年9月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲8万トンの176万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、16頁以降参照。

【出荷＋販売段階】



(単位: 玄米万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36
22年産米	0	16	145	290	314	315	297	268	208	174	135	99
1年古米(21年産)	112	81	60	52	49	41	35	29	24	20	16	13
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲22
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	176									
対前年差	▲16	▲19	▲8									
28年産米	1	14	121									
1年古米(27年産)	104	72	48									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、

出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、28/29年であれば、28年7月～29年6月である。

5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

6 26年産米は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。

7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位: 玄米万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	±0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40
22年産米	0	13	134	271	294	291	276	247	184	151	117	82
1年古米(21年産)	99	70	51	37	34	28	23	20	16	13	11	8
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	116
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲22
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	144									
対前年差	▲16	▲20	▲13									
28年産米	1	11	107									
1年古米(27年産)	84	56	35									

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位: 玄米万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	-▲7	▲4	+2	+3	+3	+4
22年産米	0	3	12	19	21	23	21	22	24	23	19	17
1年古米(21年産)	14	11	9	15	16	13	11	9	8	8	6	5
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32									
対前年差	+1	+1	+5									
28年産米	0	3	14									
1年古米(27年産)	19	16	13									

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成27年産(28年9月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産 地	27年産 (H28.9末)	26年産 (H27.9末)	前年 同月比
北海道	46.3	59.6	78%
青 森	29.9	38.0	79%
岩 手	27.3	32.4	84%
宮 城	36.6	75.3	49%
秋 田	25.3	60.5	42%
山 形	40.6	66.6	61%
福 島	24.9	28.1	89%
茨 城	17.0	24.8	69%
栃 木	44.2	56.8	78%
群 馬	5.4	7.0	77%
埼 玉	8.6	9.3	92%
千 葉	7.7	22.6	34%
東 京	0.0	0.0	—
神奈川	0.1	0.0	141%
新 潟	27.9	25.5	109%
富 山	10.4	10.6	98%
石 川	9.3	11.0	84%
福 井	7.3	8.7	84%
山 梨	0.6	1.2	56%
長 野	7.8	8.6	91%
岐 阜	6.5	9.5	68%
静 岡	0.7	0.8	78%
愛 知	6.2	7.6	81%
三 重	3.5	4.1	85%

産 地	27年産 (H28.9末)	26年産 (H27.9末)	前年 同月比
滋 賀	5.7	8.1	71%
京 都	1.5	2.3	65%
大 阪	0.2	0.3	59%
兵 庫	7.9	4.7	167%
奈 良	0.7	0.8	95%
和歌山	0.3	0.5	73%
鳥 取	2.5	3.7	67%
島 根	2.7	9.0	30%
岡 山	8.8	10.0	88%
広 島	3.7	4.5	81%
山 口	7.0	6.2	113%
徳 島	0.9	0.6	160%
香 川	2.9	3.4	85%
愛 媛	2.7	3.0	91%
高 知	1.4	0.6	247%
福 岡	10.1	8.2	123%
佐 賀	7.1	6.9	102%
長 崎	2.1	1.4	147%
熊 本	7.8	4.6	168%
大 分	2.8	3.2	86%
宮 崎	1.2	0.6	198%
鹿児島	5.1	3.7	136%
沖 縄	0.0	0.0	—
全国計	479	656	73%

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注 1： 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注 2： 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注 3： 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

(3) 平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から平成29年6月末) (速報)

産地別民間在庫の推移① (北海道から秋田)

(単位: 玄米千トン)

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷＋販売段階	117.0	79.0	108.3									
	28年産米	0.0	0.0	60.7									
	1年古米(27年産)	114.6	77.4	46.3									
	出荷段階	93.1	60.1	85.9									
	28年産米	0.0	0.0	50.8									
	1年古米(27年産)	92.0	59.3	34.5									
	販売段階	23.9	19.0	22.4									
	28年産米	0.0	0.0	10.0									
	1年古米(27年産)	22.5	18.1	11.8									
青森	出荷＋販売段階	62.6	45.6	56.9									
	28年産米	0.0	0.0	26.1									
	1年古米(27年産)	61.2	44.5	29.9									
	出荷段階	46.1	33.0	46.4									
	28年産米	0.0	0.0	25.3									
	1年古米(27年産)	46.1	32.9	21.1									
	販売段階	16.5	12.6	10.4									
	28年産米	0.0	0.0	0.8									
	1年古米(27年産)	15.1	11.5	8.8									
岩手	出荷＋販売段階	58.0	41.7	38.1									
	28年産米	0.0	0.0	9.8									
	1年古米(27年産)	56.0	40.4	27.3									
	出荷段階	50.7	35.7	32.3									
	28年産米	0.0	0.0	9.2									
	1年古米(27年産)	50.2	35.3	22.9									
	販売段階	7.2	6.1	5.8									
	28年産米	0.0	0.0	0.6									
	1年古米(27年産)	5.8	5.1	4.4									
宮城	出荷＋販売段階	75.7	55.9	72.5									
	28年産米	0.0	0.0	32.1									
	1年古米(27年産)	68.9	50.7	36.6									
	出荷段階	65.5	47.1	63.2									
	28年産米	0.0	0.0	30.6									
	1年古米(27年産)	62.4	44.6	31.0									
	販売段階	10.1	8.9	9.3									
	28年産米	0.0	0.0	1.5									
	1年古米(27年産)	6.5	6.1	5.7									
秋田	出荷＋販売段階	84.3	54.9	114.0									
	28年産米	0.0	0.0	81.6									
	1年古米(27年産)	73.6	46.6	25.3									
	出荷段階	64.9	40.2	100.8									
	28年産米	0.0	0.0	78.6									
	1年古米(27年産)	60.1	36.5	19.0									
	販売段階	19.4	14.8	13.2									
	28年産米	0.0	0.0	3.0									
	1年古米(27年産)	13.5	10.1	6.2									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、28年産米と1年古米（27年産）の合計と一致しない場合がある。

(お知らせ)

平成26年2月から平成28年6月までの産地別民間在庫の推移については、農林水産省ホームページに掲載しています。
(ホーム > 組織・政策 > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の相対取引価格・数量、契約・販売状況、民間在庫の推移等)
【<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>】

産地別民間在庫の推移②（山形から埼玉）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷＋販売段階	90.1	66.3	81.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	30.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	80.9	58.8	40.6									
	出荷段階	75.9	54.0	64.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	29.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	69.8	48.9	30.4									
	販売段階	14.3	12.3	17.1									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	11.1	9.9	10.3									
福島	出荷＋販売段階	65.6	44.4	37.1									
	28 年 産 米	0.0	0.0	10.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	62.3	41.7	24.9									
	出荷段階	48.4	29.9	26.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	9.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	46.2	28.1	15.0									
	販売段階	17.3	14.5	10.9									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	16.0	13.7	9.9									
茨城	出荷＋販売段階	44.1	44.9	115.5									
	28 年 産 米	0.0	17.8	97.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	40.1	24.7	17.0									
	出荷段階	27.1	27.2	78.5									
	28 年 産 米	0.0	11.8	69.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	25.3	14.4	8.4									
	販売段階	17.0	17.7	36.9									
	28 年 産 米	0.0	6.0	28.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	14.8	10.3	8.6									
栃木	出荷＋販売段階	86.8	67.5	117.8									
	28 年 産 米	0.0	0.0	65.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	74.6	58.1	44.2									
	出荷段階	72.0	54.9	100.4									
	28 年 産 米	0.0	0.0	60.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	65.2	49.5	36.6									
	販売段階	14.9	12.7	17.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	5.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	9.4	8.6	7.6									
群馬	出荷＋販売段階	10.4	7.3	5.8									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	10.2	7.2	5.4									
	出荷段階	8.1	5.6	4.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	8.1	5.6	3.7									
	販売段階	2.4	1.7	1.8									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.1	1.6	1.7									
埼玉	出荷＋販売段階	12.5	9.5	17.2									
	28 年 産 米	0.0	0.3	7.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	10.8	7.9	8.6									
	出荷段階	9.6	7.0	11.1									
	28 年 産 米	0.0	0.2	6.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	8.4	6.0	3.9									
	販売段階	2.9	2.4	6.1									
	28 年 産 米	0.0	0.2	0.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.4	1.9	4.6									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移③（千葉から静岡）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷＋販売段階	20.2	51.8	121.7									
	28 年 産 米	0.0	40.8	113.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	19.5	10.6	7.7									
	出荷段階	14.6	43.6	106.2									
	28 年 産 米	0.0	37.1	101.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	14.4	6.4	4.4									
	販売段階	5.6	8.2	15.5									
	28 年 産 米	0.0	3.7	11.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.1	4.2	3.3									
東京	出荷＋販売段階	0.0	0.0	0.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
	出荷段階	0.0	0.0	0.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
	販売段階	0.0	0.0	0.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
神奈川	出荷＋販売段階	0.3	0.2	0.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.3	0.2	0.1									
	出荷段階	0.3	0.2	0.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.3	0.2	0.1									
	販売段階	0.0	0.0	0.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
山梨	出荷＋販売段階	1.7	1.1	1.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.6	1.1	0.6									
	出荷段階	1.4	0.8	0.9									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.4	0.8	0.4									
	販売段階	0.3	0.3	0.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.3	0.3	0.3									
長野	出荷＋販売段階	19.5	12.7	22.8									
	28 年 産 米	0.0	0.0	14.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	19.3	12.6	7.8									
	出荷段階	15.8	9.7	19.6									
	28 年 産 米	0.0	0.0	14.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	15.8	9.7	5.5									
	販売段階	3.7	3.0	3.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	3.5	2.8	2.3									
静岡	出荷＋販売段階	2.3	6.1	15.6									
	28 年 産 米	0.0	4.7	14.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.2	1.2	0.7									
	出荷段階	1.7	3.8	10.3									
	28 年 産 米	0.0	2.9	9.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.7	0.9	0.4									
	販売段階	0.6	2.3	5.3									
	28 年 産 米	0.0	1.8	4.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.5	0.4	0.2									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移④（新潟から愛知）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷＋販売段階	70.4	46.5	238.6									
	28 年 産 米	0.0	0.6	208.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	66.7	43.0	27.9									
	出荷段階	58.4	36.7	221.3									
	28 年 産 米	0.0	0.6	197.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	55.4	33.6	22.1									
	販売段階	12.0	9.9	17.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	11.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	11.3	9.4	5.8									
富山	出荷＋販売段階	27.5	19.1	88.8									
	28 年 産 米	0.0	1.9	78.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	27.1	16.9	10.4									
	出荷段階	21.8	13.8	82.0									
	28 年 産 米	0.0	1.5	74.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	21.8	12.2	7.3									
	販売段階	5.7	5.4	6.8									
	28 年 産 米	0.0	0.4	3.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.3	4.6	3.1									
石川	出荷＋販売段階	19.4	19.1	68.5									
	28 年 産 米	0.0	5.7	58.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	19.0	13.0	9.3									
	出荷段階	16.1	14.7	47.1									
	28 年 産 米	0.0	3.7	39.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	16.0	11.0	8.0									
	販売段階	3.4	4.4	21.4									
	28 年 産 米	0.0	2.0	19.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	3.0	2.0	1.3									
福井	出荷＋販売段階	15.9	15.9	51.9									
	28 年 産 米	0.0	5.4	44.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	15.3	10.1	7.3									
	出荷段階	11.0	10.5	43.4									
	28 年 産 米	0.0	3.6	38.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	10.8	6.8	4.8									
	販売段階	4.9	5.4	8.5									
	28 年 産 米	0.0	1.7	5.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.5	3.3	2.5									
岐阜	出荷＋販売段階	11.8	11.0	12.4									
	28 年 産 米	0.0	1.4	5.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	10.6	8.6	6.5									
	出荷段階	9.2	8.3	9.2									
	28 年 産 米	0.0	1.1	4.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	8.9	6.9	5.2									
	販売段階	2.6	2.7	3.2									
	28 年 産 米	0.0	0.3	1.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.7	1.6	1.3									
愛知	出荷＋販売段階	12.6	11.6	16.6									
	28 年 産 米	0.0	2.4	10.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	12.2	8.8	6.2									
	出荷段階	11.0	9.7	13.4									
	28 年 産 米	0.0	1.7	8.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	11.0	8.0	4.6									
	販売段階	1.6	1.9	3.1									
	28 年 産 米	0.0	0.7	1.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.2	0.9	1.6									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移⑤（三重から奈良）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三 重	出荷＋販売段階	8.4	21.6	47.9									
	28 年 産 米	0.0	16.8	44.4									
	1 年 古 米（27 年 産）	8.2	4.6	3.5									
	出荷段階	6.4	17.7	42.8									
	28 年 産 米	0.0	14.3	40.1									
	1 年 古 米（27 年 産）	6.3	3.3	2.7									
	販売段階	2.0	3.9	5.2									
	28 年 産 米	0.0	2.5	4.2									
	1 年 古 米（27 年 産）	1.9	1.3	0.8									
滋 賀	出荷＋販売段階	15.8	14.1	47.8									
	28 年 産 米	0.0	4.2	41.8									
	1 年 古 米（27 年 産）	15.3	9.5	5.7									
	出荷段階	12.7	10.6	42.9									
	28 年 産 米	0.0	3.7	39.3									
	1 年 古 米（27 年 産）	12.4	6.6	3.4									
	販売段階	3.1	3.5	4.9									
	28 年 産 米	0.0	0.4	2.5									
	1 年 古 米（27 年 産）	2.9	2.9	2.3									
京 都	出荷＋販売段階	5.1	3.0	6.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	5.0									
	1 年 古 米（27 年 産）	5.0	2.9	1.5									
	出荷段階	4.3	2.4	5.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	4.5									
	1 年 古 米（27 年 産）	4.2	2.3	1.1									
	販売段階	0.8	0.6	1.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.5									
	1 年 古 米（27 年 産）	0.7	0.5	0.4									
大 阪	出荷＋販売段階	0.8	0.5	0.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.3									
	1 年 古 米（27 年 産）	0.7	0.5	0.2									
	出荷段階	0.7	0.4	0.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.3									
	1 年 古 米（27 年 産）	0.7	0.4	0.1									
	販売段階	0.1	0.1	0.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米（27 年 産）	0.1	0.1	0.0									
兵 庫	出荷＋販売段階	14.9	11.3	27.6									
	28 年 産 米	0.0	0.0	19.6									
	1 年 古 米（27 年 産）	14.6	11.1	7.9									
	出荷段階	12.2	8.9	24.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	18.4									
	1 年 古 米（27 年 産）	12.2	8.9	6.1									
	販売段階	2.7	2.4	3.1									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.2									
	1 年 古 米（27 年 産）	2.4	2.1	1.8									
奈 良	出荷＋販売段階	3.0	1.9	1.9									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.0									
	1 年 古 米（27 年 産）	2.6	1.6	0.7									
	出荷段階	2.2	1.2	0.9									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.9									
	1 年 古 米（27 年 産）	2.2	1.2	0.0									
	販売段階	0.8	0.7	1.0									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.1									
	1 年 古 米（27 年 産）	0.4	0.4	0.7									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移⑥（和歌山から山口）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷＋販売段階	0.9	0.7	1.4									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.8	0.6	0.3									
	出荷段階	0.6	0.5	1.2									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.6	0.4	0.3									
	販売段階	0.4	0.2	0.1									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.2	0.1	0.1									
鳥取	出荷＋販売段階	7.0	4.3	8.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	5.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	6.9	4.3	2.5									
	出荷段階	5.2	2.9	6.7									
	28 年 産 米	0.0	0.0	5.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.2	2.9	1.6									
	販売段階	1.8	1.4	1.5									
	28 年 産 米	0.0	0.0	0.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.8	1.3	0.9									
島根	出荷＋販売段階	7.2	5.4	18.8									
	28 年 産 米	0.0	1.0	16.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	7.0	4.3	2.7									
	出荷段階	5.6	4.0	16.9									
	28 年 産 米	0.0	0.9	15.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.6	3.2	1.9									
	販売段階	1.6	1.3	1.9									
	28 年 産 米	0.0	0.1	1.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.4	1.1	0.8									
岡山	出荷＋販売段階	17.3	12.7	16.3									
	28 年 産 米	0.0	0.0	7.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	17.1	12.5	8.8									
	出荷段階	13.3	8.9	10.9									
	28 年 産 米	0.0	0.0	6.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	13.2	8.7	4.7									
	販売段階	4.0	3.8	5.4									
	28 年 産 米	0.0	0.0	1.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	3.9	3.7	4.1									
広島	出荷＋販売段階	9.9	7.3	21.6									
	28 年 産 米	0.0	0.5	17.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	9.5	6.5	3.7									
	出荷段階	7.1	4.5	18.3									
	28 年 産 米	0.0	0.4	16.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	7.1	4.1	1.9									
	販売段階	2.8	2.8	3.3									
	28 年 産 米	0.0	0.1	1.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.4	2.4	1.8									
山口	出荷＋販売段階	12.9	10.6	19.7									
	28 年 産 米	0.0	0.7	12.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	12.6	9.8	7.0									
	出荷段階	11.4	9.2	18.2									
	28 年 産 米	0.0	0.5	12.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	11.4	8.7	6.2									
	販売段階	1.4	1.3	1.4									
	28 年 産 米	0.0	0.1	0.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.2	1.1	0.8									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移⑦（徳島から佐賀）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷＋販売段階	1.7	9.8	12.9									
	28 年 産 米	0.0	8.6	12.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.7	1.2	0.9									
	出荷段階	0.4	7.5	9.5									
	28 年 産 米	0.0	7.3	9.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.4	0.3	0.3									
	販売段階	1.4	2.3	3.4									
	28 年 産 米	0.0	1.3	2.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.3	0.9	0.7									
香川	出荷＋販売段階	7.2	5.7	7.4									
	28 年 産 米	0.0	0.7	4.5									
	1 年 古 米 (27 年 産)	7.1	4.9	2.9									
	出荷段階	6.4	4.8	6.6									
	28 年 産 米	0.0	0.6	4.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	6.4	4.2	2.4									
	販売段階	0.8	0.9	0.7									
	28 年 産 米	0.0	0.1	0.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.7	0.7	0.5									
愛媛	出荷＋販売段階	5.1	6.6	9.1									
	28 年 産 米	0.0	2.7	6.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.6	3.6	2.7									
	出荷段階	4.5	6.1	8.4									
	28 年 産 米	0.0	2.7	5.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.2	3.2	2.4									
	販売段階	0.6	0.6	0.6									
	28 年 産 米	0.0	0.1	0.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.5	0.4	0.3									
高知	出荷＋販売段階	2.9	10.4	9.4									
	28 年 産 米	0.7	8.6	7.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.1	1.7	1.4									
	出荷段階	1.0	5.8	5.0									
	28 年 産 米	0.5	5.5	4.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.4	0.2	0.2									
	販売段階	2.0	4.6	4.4									
	28 年 産 米	0.3	3.1	3.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.7	1.4	1.2									
福岡	出荷＋販売段階	20.9	15.3	25.9									
	28 年 産 米	0.0	1.1	15.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	20.5	14.0	10.1									
	出荷段階	18.4	12.9	19.6									
	28 年 産 米	0.0	0.6	10.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	18.2	12.2	8.8									
	販売段階	2.6	2.4	6.3									
	28 年 産 米	0.0	0.5	4.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.3	1.8	1.3									
佐賀	出荷＋販売段階	14.5	12.2	11.0									
	28 年 産 米	0.1	1.6	3.9									
	1 年 古 米 (27 年 産)	14.3	10.5	7.1									
	出荷段階	13.1	10.7	9.5									
	28 年 産 米	0.0	1.5	3.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	13.1	9.2	5.8									
	販売段階	1.3	1.4	1.6									
	28 年 産 米	0.1	0.1	0.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.2	1.3	1.2									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

産地別民間在庫の推移⑧（長崎から沖縄）

（単位：玄米千トン）

		28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷＋販売段階	4.8	4.2	4.0									
	28 年 産 米	0.0	0.7	1.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.6	3.3	2.1									
	出荷段階	4.4	3.7	3.5									
	28 年 産 米	0.0	0.6	1.6									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.4	3.0	1.8									
	販売段階	0.4	0.5	0.5									
	28 年 産 米	0.0	0.1	0.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.3	0.3	0.3									
熊本	出荷＋販売段階	16.3	15.3	14.5									
	28 年 産 米	0.0	3.5	6.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	16.2	11.8	7.8									
	出荷段階	11.7	10.8	9.4									
	28 年 産 米	0.0	2.6	4.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	11.7	8.1	4.7									
	販売段階	4.6	4.6	5.1									
	28 年 産 米	0.0	0.8	2.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	4.4	3.7	3.1									
大分	出荷＋販売段階	7.1	5.6	4.8									
	28 年 産 米	0.0	0.5	2.0									
	1 年 古 米 (27 年 産)	6.9	5.0	2.8									
	出荷段階	5.3	4.0	3.0									
	28 年 産 米	0.0	0.4	1.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.3	3.6	1.7									
	販売段階	1.8	1.6	1.8									
	28 年 産 米	0.0	0.2	0.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	1.7	1.4	1.0									
宮崎	出荷＋販売段階	9.2	6.9	4.0									
	28 年 産 米	5.6	4.3	2.7									
	1 年 古 米 (27 年 産)	3.5	2.5	1.2									
	出荷段階	7.1	4.1	1.0									
	28 年 産 米	4.4	2.3	0.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.6	1.8	0.7									
	販売段階	2.1	2.8	3.0									
	28 年 産 米	1.2	2.0	2.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.8	0.8	0.5									
鹿児島	出荷＋販売段階	10.1	10.9	8.5									
	28 年 産 米	1.4	3.7	2.8									
	1 年 古 米 (27 年 産)	7.9	6.5	5.1									
	出荷段階	6.6	5.7	4.5									
	28 年 産 米	0.7	0.6	0.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	5.4	4.6	3.6									
	販売段階	3.5	5.2	4.0									
	28 年 産 米	0.7	3.0	2.4									
	1 年 古 米 (27 年 産)	2.6	2.0	1.4									
沖縄	出荷＋販売段階	0.5	0.3	0.3									
	28 年 産 米	0.5	0.3	0.3									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
	出荷段階	0.3	0.2	0.2									
	28 年 産 米	0.3	0.2	0.2									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									
	販売段階	0.2	0.1	0.1									
	28 年 産 米	0.2	0.1	0.1									
	1 年 古 米 (27 年 産)	0.0	0.0	0.0									

注：本表の注意点は、北海道から秋田の表の脚注参照。

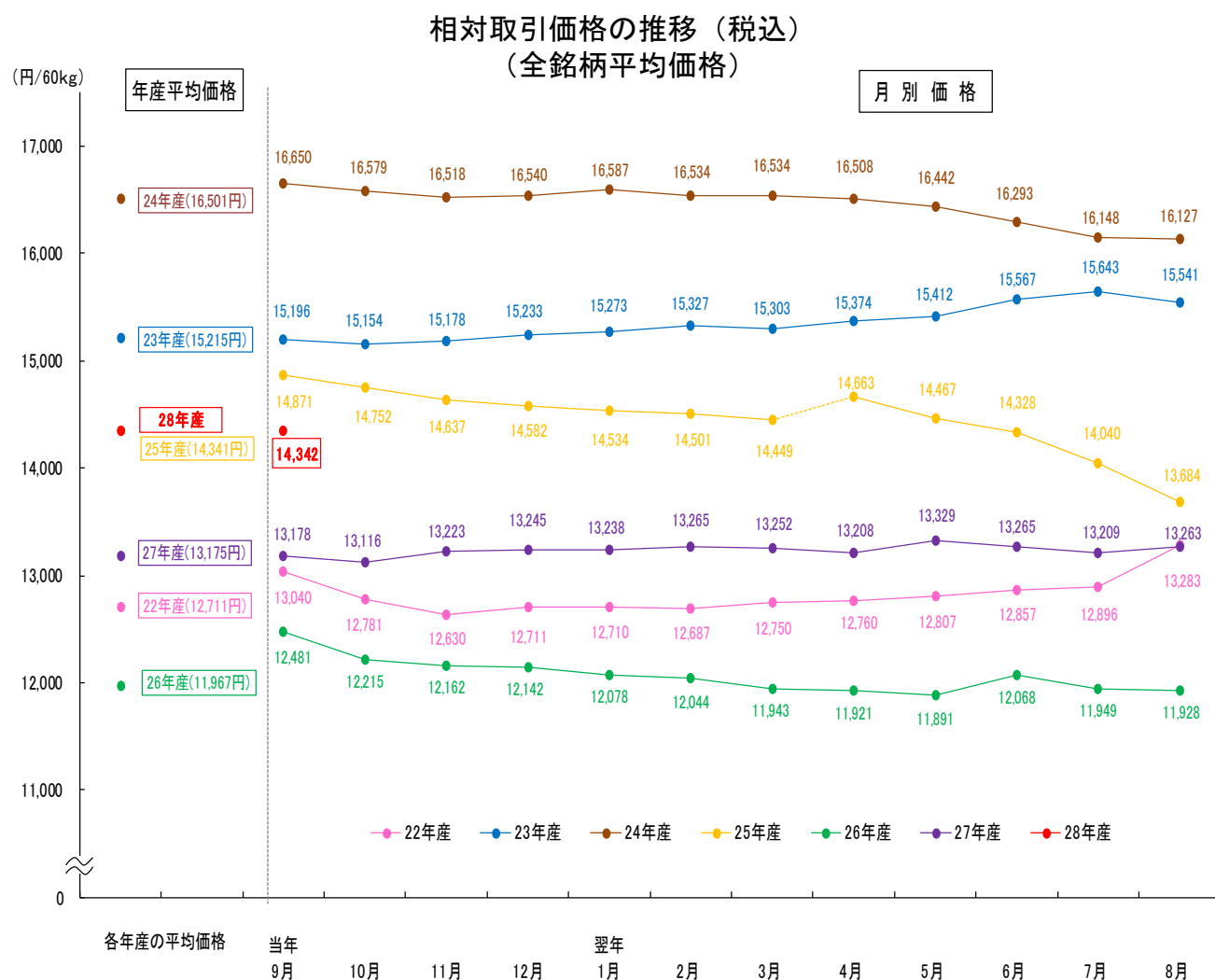
Ⅳ 米の価格情報

1 相対取引価格・数量

(1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成28年9月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,164円/60kg。

※ 産地銘柄ごとの価格は、26頁以降を参照。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（5%。ただし、25年産の26年4月分以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（27年産は翌年8月）までの通年平均価格。

(2) 価格帯別分析結果（平成28年9月）

- 平成27年産米と平成28年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成27年産の価格が13,000円以上の銘柄は+906円、11,000円未満の銘柄では+2,137円。
- 産地銘柄ごとでは、「福島県産天のつぶ」が最も上昇しており、次いで、「福島県産ひとめぼれ」、「徳島県産キヌヒカリ」という状況。

価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	27年産の相対取引価格			
	13,000円以上の銘柄の平均	13,000円～12,000円の銘柄の平均	12,000円～11,000円の銘柄の平均	11,000円未満の銘柄の平均
27年産(出回り～28年8月) ①	14,614	12,640	11,612	10,838
28年産(28年9月) (27年産価格帯ベース) ②	15,520	13,800	13,096	12,975
価格差 ②-①	+ 906	+ 1,160	+ 1,484	+ 2,137

平成27年産と平成28年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

			平成27年産 (出回り～平成28年8月) ①	平成28年産 (平成28年9月) ②	価格差 ②-①
福島	天のつぶ		10,528	12,889	+ 2,361
福島	ひとめぼれ		11,136	13,276	+ 2,140
徳島	キヌヒカリ		11,561	13,608	+ 2,047
千葉	ふさおとめ		10,988	13,015	+ 2,027
福島	コシヒカリ	浜通り	11,122	13,105	+ 1,983
岡山	あきたこまち		11,885	13,814	+ 1,929
京都	コシヒカリ		14,109	16,030	+ 1,921
北海道	きらら397		12,507	14,253	+ 1,746
千葉	ふさこがね		11,120	12,756	+ 1,636
高知	コシヒカリ		13,511	15,050	+ 1,539

(3) 相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成28年9月分）

相対取引価格・数量①（北海道から群馬まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (28年9月) ①	数量 28年産米 (28年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				28年産米 (28年8月)		27年産米 (27年9月)		28年産米 (28年8月)		27年産米 (27年9月)	
				対前月比 ③	対前年比 ①/③	対前月比 ④	対前年比 ①/④	対前月比 ⑤	対前年比 ②/⑤	対前月比 ⑥	対前年比 ②/⑥
北海道	ななつぼし	14,200	34,808	-	-	13,356	106%	-	-	12,315	283%
北海道	ゆめぴりか	17,136	13,205	-	-	17,080	100%	-	-	8,730	151%
北海道	きらら397	14,253	3,902	-	-	12,803	111%	-	-	1,527	256%
青森	まっしぐら	12,988	729	-	-	11,210	116%	-	-	656	111%
青森	つがるロマン	13,311	869	-	-	11,697	114%	-	-	373	233%
岩手	ひとめぼれ	14,071	3,236	-	-	13,004	108%	-	-	2,819	115%
岩手	あきたこまち	13,558	326	-	-	12,586	108%	-	-	312	104%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	ひとめぼれ	13,849	10,824	-	-	12,559	110%	-	-	17,021	64%
宮城	ササニシキ	13,886	1,690	-	-	12,665	110%	-	-	681	248%
宮城	つや姫	14,300	664	-	-	12,845	111%	-	-	1,409	47%
秋田	あきたこまち	14,151	8,336	-	-	12,819	110%	-	-	13,338	62%
秋田	めんこいな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田	ひとめぼれ	-	-	-	-	11,938	-	-	-	304	-
山形	はえぬき	13,842	5,550	-	-	13,088	106%	-	-	855	649%
山形	つや姫	18,121	950	-	-	18,074	100%	-	-	338	281%
山形	ひとめぼれ	14,128	877	-	-	12,677	111%	-	-	322	272%
福島	コシヒカリ(中通り)	13,423	126	-	-	11,739	114%	-	-	154	82%
福島	コシヒカリ(会津)	14,938	308	-	-	13,753	109%	-	-	113	273%
福島	コシヒカリ(浜通り)	13,105	108	-	-	11,269	116%	-	-	108	100%
福島	ひとめぼれ	13,276	637	-	-	10,815	123%	-	-	1,382	46%
福島	天のつぶ	12,889	108	-	-	10,729	120%	-	-	108	100%
茨城	コシヒカリ	13,302	26,848	-	-	12,517	106%	-	-	22,300	120%
茨城	あきたこまち	13,033	5,567	-	-	11,724	111%	-	-	5,646	98%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	10,398	-	-	-	124	-
栃木	コシヒカリ	13,653	5,461	-	-	12,750	107%	-	-	11,241	49%
栃木	あさひの夢	-	-	-	-	11,338	-	-	-	2,200	-
栃木	なすひかり	13,556	278	-	-	11,870	114%	-	-	2,546	11%
群馬	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬	ゆめまつり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。

3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。

8 「－」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（埼玉から奈良まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (28年9月) ①	数量 28年産米 (28年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				28年産米 (28年8月)		27年産米 (27年9月)		28年産米 (28年8月)		27年産米 (27年9月)	
				対前年比	①/③	対前年比	①/④	対前年比	②/⑤	対前年比	②/⑥
③	①/③	④	①/④	⑤	②/⑤	⑥	②/⑥				
埼玉	彩のかがやき	12,797	109	-	-	11,506	111%	-	-	110	99%
埼玉	コシヒカリ	13,651	749	-	-	12,588	108%	-	-	221	339%
埼玉	彩のきずな	-	-	-	-			-	-		
千葉	コシヒカリ	13,593	8,055	-	-	12,183	112%	-	-	5,975	135%
千葉	ふさこがね	12,756	3,303	-	-	10,694	119%	-	-	1,778	186%
千葉	ふさおとめ	13,015	2,388	-	-	10,874	120%	-	-	3,723	64%
山梨	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	コシヒカリ	14,572	3,661	-	-	13,782	106%	-	-	4,288	85%
長野	あきたこまち	13,600	929	-	-	12,440	109%	-	-	1,132	82%
静岡	コシヒカリ	14,755	385	-	-	14,135	104%	-	-	343	112%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	16,599	13,994	-	-	16,078	103%	-	-	11,696	120%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,803	2,774	-	-	20,208	103%	-	-	2,498	111%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,038	2,891	-	-	16,460	104%	-	-	1,460	198%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,012	2,168	-	-	16,451	103%	-	-	2,008	108%
新潟	こしいぶき	13,615	4,916	-	-	12,233	111%	-	-	4,090	120%
富山	コシヒカリ	15,428	11,072	-	-	14,365	107%	-	-	7,654	145%
富山	てんたかく	14,048	1,034	-	-	12,680	111%	-	-	1,611	64%
石川	コシヒカリ	14,731	5,340	-	-	13,940	106%	-	-	2,341	228%
石川	ゆめみづほ	13,186	3,033	-	-	11,569	114%	-	-	2,032	149%
福井	コシヒカリ	15,091	2,163	-	-	14,062	107%	-	-	2,393	90%
福井	ハナエチゼン	13,544	1,729	-	-	12,544	108%	-	-	1,421	122%
岐阜	ハツシモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜	コシヒカリ	14,686	536	-	-	13,937	105%	-	-	503	107%
岐阜	あきたこまち	13,239	445	-	-	12,511	106%	-	-	282	158%
愛知	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	コシヒカリ	13,522	114	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重	コシヒカリ(一般)	14,207	931	-	-	13,589	105%	-	-	830	112%
三重	コシヒカリ(伊賀)	14,647	387	-	-	14,000	105%	-	-	480	81%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	12,530	-	-	-	132	-
滋賀	コシヒカリ	14,166	7,174	-	-	13,312	106%	-	-	7,072	101%
滋賀	キヌヒカリ	13,108	1,766	-	-	11,925	110%	-	-	3,492	51%
滋賀	日本晴	13,072	697	-	-	11,353	115%	-	-	1,501	46%
京都	コシヒカリ	16,030	943	-	-	14,472	111%	-	-	1,130	83%
京都	キヌヒカリ	13,404	206	-	-	12,508	107%	-	-	261	79%
兵庫	コシヒカリ	15,168	1,300	-	-	14,456	105%	-	-	1,366	95%
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	キヌヒカリ	12,887	136	-	-	11,514	112%	-	-	249	55%
奈良	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：本表の注意点は前頁の脚注を参照

相対取引価格・数量③（鳥取から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (28年9月) ①	数量 28年産米 (28年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				28年産米 (28年8月) ③	対前月比 ①/③	27年産米 (27年9月) ④	対前年比 ①/④	28年産米 (28年8月) ⑤	対前月比 ②/⑤	27年産米 (27年9月) ⑥	対前年比 ②/⑥
鳥取	コシヒカリ	13,882	246	-	-	13,358	104%	-	-	352	70%
鳥取	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	ひとめぼれ	13,018	590	-	-	12,210	107%	-	-	780	76%
島根	コシヒカリ	14,723	3,087	-	-	13,685	108%	-	-	2,584	119%
島根	きぬむすめ	13,304	2,993	-	-	11,824	113%	-	-	1,117	268%
島根	つや姫	13,816	1,363	-	-			-	-		
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山	あきたこまち	13,814	1,119	-	-	11,708	118%	-	-	662	169%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	コシヒカリ	14,405	1,513	-	-	13,173	109%	-	-	1,744	87%
広島	あきろまん	13,249	183	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口	コシヒカリ	14,278	887	-	-	13,727	104%	-	-	558	159%
山口	ひとめぼれ	13,122	517	-	-	12,615	104%	-	-	353	146%
山口	ヒノヒカリ	13,179	672	-	-	12,624	104%	-	-	185	363%
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	13,236	-	-	-	132	-
徳島	キヌヒカリ	13,608	360	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	コシヒカリ	13,888	540	-	-	13,367	104%	-	-	630	86%
愛媛	コシヒカリ	13,688	406	-	-	13,080	105%	-	-	366	111%
愛媛	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	あきたこまち	13,081	129	-	-	12,445	105%	-	-	115	112%
高知	コシヒカリ	15,050	668	-	-	-	-	-	-	-	-
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	夢つくし	16,019	2,187	-	-	15,404	104%	-	-	1,712	128%
福岡	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	元気つくし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	さがびより	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	夢しずく	13,621	203	-	-	13,391	102%	-	-	196	104%
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	コシヒカリ	15,160	153	-	-	14,992	101%	-	-	126	121%
熊本	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	コシヒカリ	14,942	446	-	-	14,565	103%	-	-	653	68%
大分	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	コシヒカリ	14,061	1,211	-	-	13,773	102%	-	-	1,085	112%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	あきほなみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	コシヒカリ	15,403	110	-	-	14,244	108%	-	-	224	49%
全銘柄平均価格、合計数量		14,342	230,528	-	-	13,178	109%	-	-	195,347	118%

注：本表の注意点は前々頁の脚注を参照

(4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

スポット価格①〔 株式会社日本農産情報、日本コメ市場株式会社、株式会社クリスタルライス、株式会社加工用米取引センター 〕

税抜価格

【平成28年産】

(1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 7月	8月	9月	10月
北海道なつぽし	日本農産情報			13,600	
北海道ゆめぴりか	日本農産情報			15,400	
青森まっしぐら	日本農産情報			12,800	
	日本コメ市場(随時)			12,925	
青森つがるロマン	日本農産情報			13,000	
	日本農産情報			13,500	
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)			13,507	13,559
	日本コメ市場(取引会)			13,471	
山形はえぬき	日本農産情報			13,300	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)				13,166
茨城コシヒカリ	日本農産情報			13,200	
	日本コメ市場(取引会)		13,151	13,450	
茨城あきたこまち	日本農産情報		12,800	13,100	
	日本コメ市場(取引会)		12,834		
栃木あさひの夢	日本農産情報			12,700	
千葉ふさがね	日本コメ市場(取引会)			12,913	
	日本農産情報		12,400	12,700	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)		12,661		
	日本農産情報			14,900	
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(取引会)			15,231	
新潟こしいぶき	日本農産情報			14,000	
富山コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報			14,100	
福井ハナエチゼン	日本農産情報		12,500	12,600	
三重コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報		13,300	13,300	
徳島コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報		13,200	13,100	
高知コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報		13,300	13,500	
宮崎コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報	13,600			
山形ヒメノモチ	日本農産情報			12,800	
千葉ヒメノモチ	日本農産情報		12,800	12,500	

【平成27年産】

(1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぽし	日本農産情報	12,400	12,100	12,100	12,100	12,500	12,500	12,600	13,200	13,200	13,400	13,400	13,400
	日本コメ市場(取引会)		12,406										
北海道ゆめぴりか	日本農産情報	13,900	13,800	13,800	13,600	13,900	14,000	14,500	15,800	16,000	16,000	15,900	15,900
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)										12,400		
青森まっしぐら	日本農産情報		11,300	11,200	11,000	11,400	11,600	11,800	12,300	12,800	12,100	12,200	12,200
	日本農産情報		11,400	11,400	11,200	11,600	12,000	12,000	12,500	13,000	12,400	12,400	12,400
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				11,400	11,638	11,623	11,883				12,462	
	日本コメ市場(取引会)											12,700	
岩手ひとめぼれ	日本農産情報		11,300	11,600	11,600	12,000	12,000	12,300	12,800	13,700	12,600	12,600	12,600
	日本コメ市場(取引会)						12,446	12,648	13,241				
岩手あきたこまち	日本農産情報		11,200	11,400	11,400	11,700	11,900	12,400	12,900	13,800	13,400	12,500	12,500
宮城ひとめぼれ	日本農産情報		11,700	11,900	11,900	12,300	12,300	12,500	13,500	14,000	13,700	13,600	13,600
	日本コメ市場(随時)			12,196						14,337			
	日本農産情報	11,600	11,700	11,700	11,700	12,100	12,100	12,600	13,700	14,200	13,700	13,500	13,500
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)	11,724	11,722		12,000	12,046	12,255	12,768	13,960	14,425	14,240	13,335	13,483
	日本コメ市場(取引会)		11,732			12,048		12,455	14,070			13,352	13,689
山形はえぬき	日本農産情報	11,000	11,300	11,500	11,800	12,000	12,300	12,600	13,300	14,000	13,200	13,000	13,200
	日本農産情報		11,600	11,600	11,700	11,800	12,000	11,900	12,400	12,800	12,300	12,200	12,300
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)		11,429			12,053	12,000	12,064	12,640	12,771			12,322
	日本コメ市場(取引会)											12,169	12,550
福島中通ひとめぼれ	日本農産情報	10,600	11,000	11,300	11,300	11,600	11,800	11,900	12,400	13,000	12,500	12,300	12,300
	日本コメ市場(取引会)			11,503					12,688				
茨城コシヒカリ	日本農産情報	11,400	11,600	11,600	11,600	12,000	12,100	12,100	12,600	12,900	12,200	12,200	12,200
	日本コメ市場(随時)	11,463	11,661	11,800	11,938		12,299	12,172	12,733	12,958		12,419	
	日本コメ市場(取引会)		11,766	11,650		11,917		12,135	12,593				
茨城あきたこまち	日本農産情報	10,800	11,100	11,100	11,100	11,700	11,900	12,600	13,700	13,200	12,600		
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			11,700	11,700		12,253	12,215	12,516	13,100			
	日本コメ市場(取引会)											12,209	
栃木あさひの夢	日本農産情報	10,300	10,800	10,900	10,800	11,200	11,600	11,600	12,400	12,800	12,200	11,900	11,900
	日本コメ市場(取引会)			11,200		11,214							
埼玉彩のかがやき	日本農産情報		11,000	11,000	11,000	11,500	11,800	11,800	12,600	12,800			
千葉ふさおとめ	日本農産情報	10,500	10,900	11,100	11,100	11,400	11,700	11,900	12,300	12,800	12,500	12,400	
	日本コメ市場(取引会)		10,851										
千葉あきたこまち	日本コメ市場(取引会)			11,500		11,581		12,152					
	日本農産情報	14,600	14,700	15,100	15,100	15,400	15,400	15,500	15,500	15,500	15,100	14,600	14,100
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)			15,371	15,551		15,548	15,654	15,465	15,537			
	日本コメ市場(取引会)		14,971	15,363		15,479		15,568	15,466			14,760	14,138
新潟コシヒカリ(魚沼)	日本農産情報		19,600	20,300	21,800	23,500	23,500	24,500	24,500	24,000	18,800	18,500	
新潟こしいぶき	日本農産情報	11,300	11,800	11,800	11,800	12,200	12,700	12,700	13,300	13,800	13,800	13,500	13,500
富山コシヒカリ(近畿着)	日本農産情報	13,300	13,400	13,400	13,400	13,400	13,400	13,700	13,700	13,500	13,400	12,800	12,800
山形ヒメノモチ	日本農産情報	15,000	15,000	15,200	15,200	15,200	15,100	13,500	13,500	13,000	13,000	13,000	
千葉ヒメノモチ	日本農産情報	14,700	14,700	14,700	14,500	14,500	13,700	13,500	13,200	12,500	12,500	12,500	

出典： 株式会社日本農産情報HP、日本コメ市場株式会社HP、株式会社加工用米取引センターHP

- 注： 1 日本農産情報の価格は、特にことわりのない場合は1口10トン以上の取引で、東京着値基準、1等、中卸価格。
2 日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分。ただし、下期が公表されていない場合は上期)の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。
3 日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。
4 加工用米取引センターの価格は、着地持込価格であり、包装代を含む価格。特に記載のない場合は、1等。

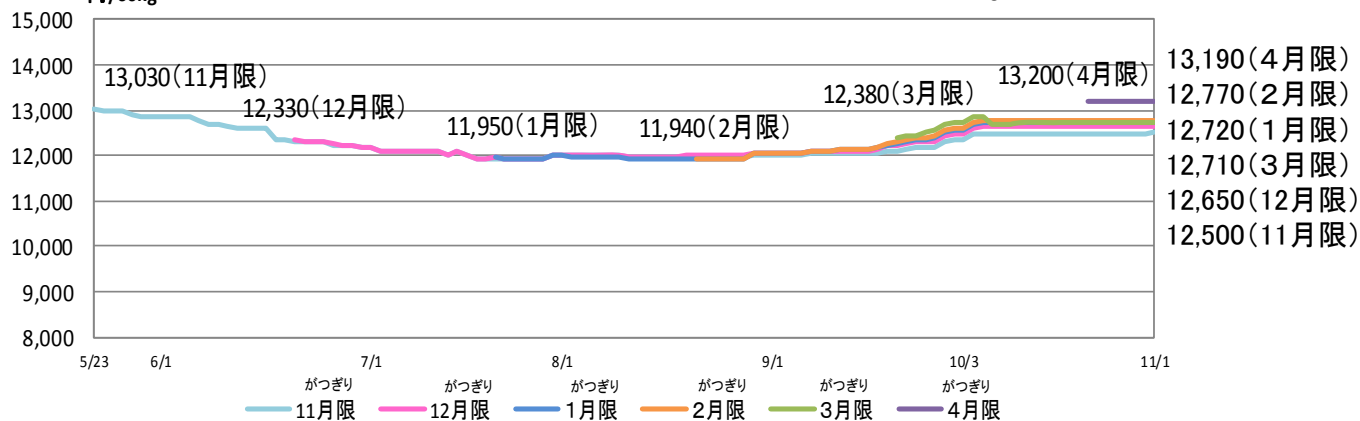
2 米の先物取引価格の推移

- 米の先物取引価格(11月1日)は、先月(10月3日)に比べ終値で、東京コメが▲30円/60kg(3月限)～+160円/60kg(12、1、2月限)、大阪コメが▲110円/60kg(2月限)～+80円/60kg(1月限)。

①東京コメ

円/60kg

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

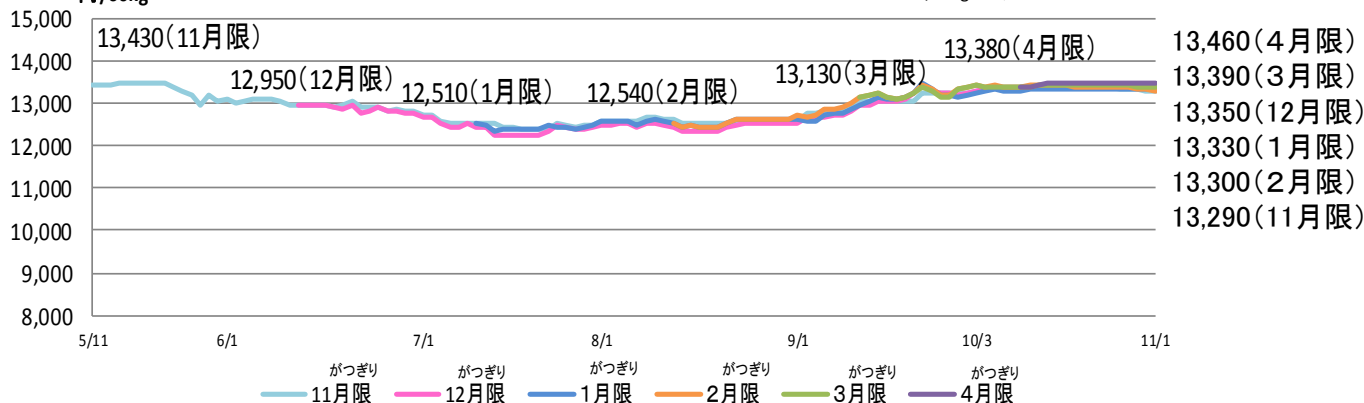


税抜価格

②大阪コメ

円/60kg

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

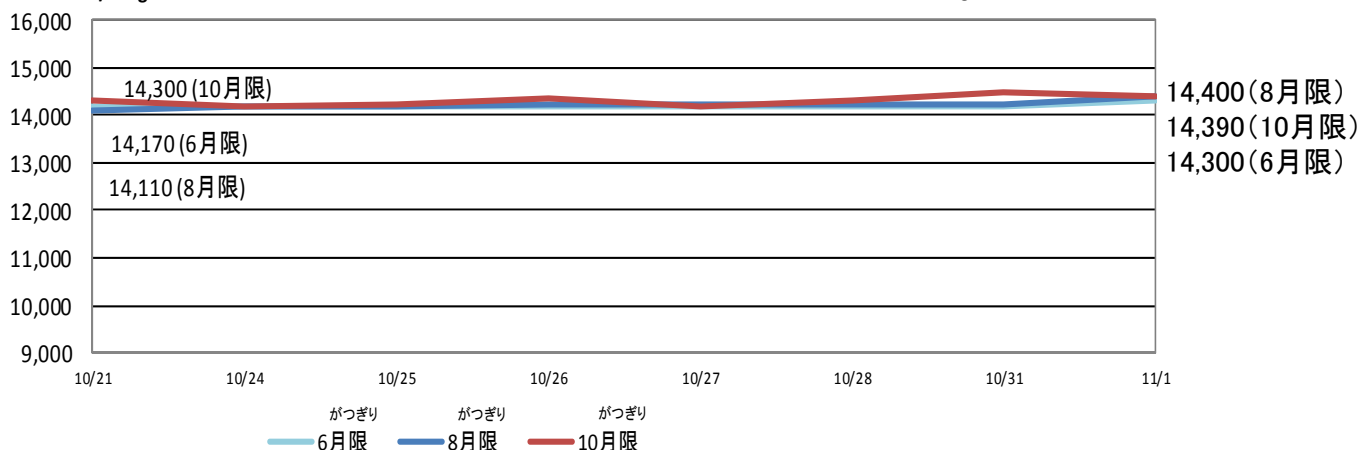


税抜価格

③新潟コシ

円/60kg

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)



税抜価格

V 主食用米以外（輸出を含む）

1 28年産米の作付状況

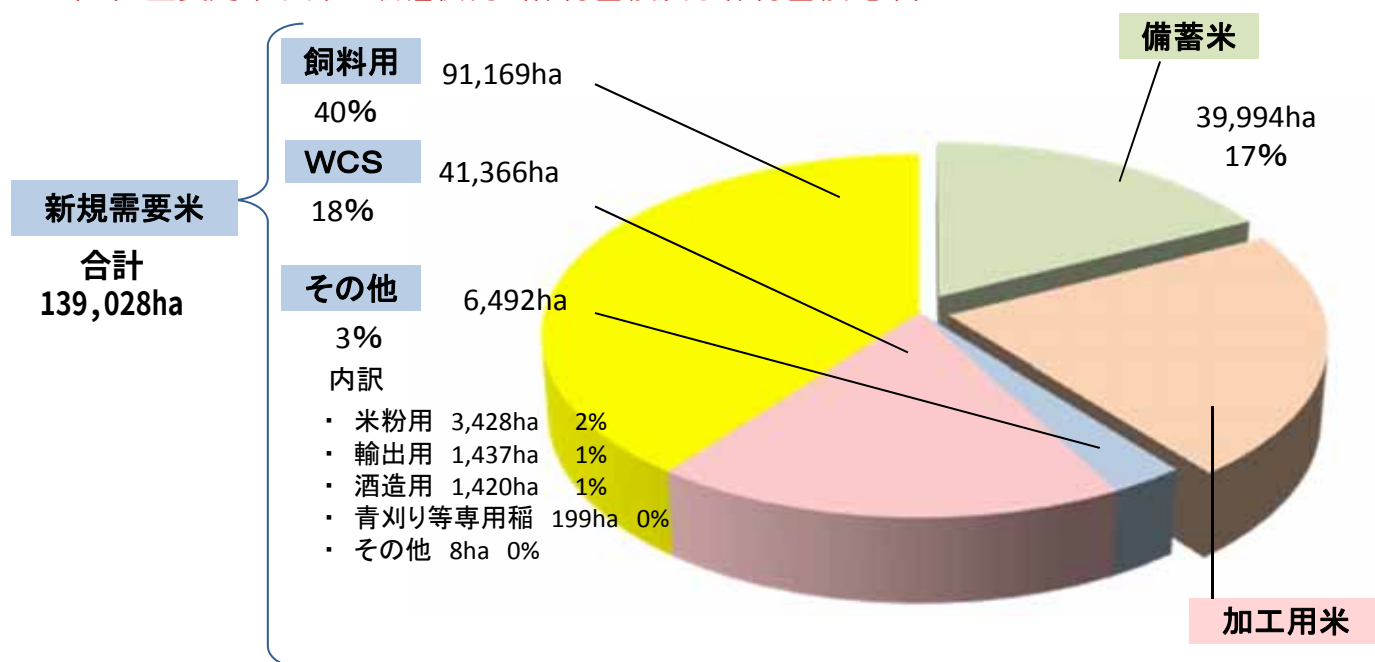
- 平成28年産米の作付面積は、主食用米が138.1万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米13.9万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米4.0万ha。

(1) 28年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	161.1	138.1	13.9	5.1	4.0
生産量（万トン）		752	52	28	23

※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：新規需要米の作付面積は、農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」の値。

加工用米の作付面積は、需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの28年度報告値。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米(28年産)							
	合 計	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り等専用稲	その他
作付面積（ha）	139,028	91,169	3,428	1,437	1,420	41,366	199	8
計画生産量（ト）	515,200	481,468	18,454	7,950	7,309			19

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 日本酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の年間使用量は近年95万トン程度（推計）で推移。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割。残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 用途別の使用量は、日本酒用が最も多く、次いであらね、せんべいの米菓用、和菓子等の原料となる米穀粉用となっている。

平成26米穀年度（平成25年11月～26年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

〈うるち米〉

（単位：万トン）

制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 （米粉用米）	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
日本酒用	11 (8)	9		4			24 (8)
米菓用	1	1		5	3	2	12
加工米飯用 （無菌包装米飯除く）	5	5					10
味噌用		1		3	6		10
焼酎用 （泡盛含む）		1		6	3		9
米穀粉用		1	3	1	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	18	3	21	14	3	77

〈もち米〉

（単位：万トン）

制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 （米粉用米）	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1			1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 （無菌包装米飯除く）	1						1
その他用						2	2
合計	7	3		1	2	7	19

注1：日本酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2：加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。

3：焼酎は単式蒸留しうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4：その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5：特定米穀とは、水稻收穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

日本酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用

その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）

加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成28年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
 - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
 - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
 - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約3万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ⑤ 畜産農家の新規需要量：112件、約3万トン（平成28年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成27年12月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備 考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A 全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A 東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A 東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A 西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合 計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 営農販売企画部飼料用米対策課 TEL:03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量（平成27年11月調査）

地 区	需要量 (千トン：単年度)	(参考) 中長期需要量注2 (千トン：単年度)
北海道	36	147
東北	155	305
関東	109	405
中部	49	207
関西	82	277
九州	177	623
合 計	608	1,964

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量。

注2) 新たな設備投資等を含め、中長期的にみた日本飼料工業会組合員飼料メーカーの需要量。(平成26年3月調査)

注3) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注4) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成28年5月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	8.4	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀と新規需要米併用
関東	0.8	政府所有米穀と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合 計	12.6	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成28年4月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	4.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	19.5	*一部、粳米不可
合 計	26.7	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

⑤ 畜産農家の28年産飼料用米の新規需要量（平成28年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	3	1,002	1	1,000
宮城県	1	2,400	1	2,400
茨城県	7	226	3	80
群馬県	8	999	2	23
埼玉県	1	120		
千葉県	4	1,370	0	580
山梨県	14	431	4	69
長野県	9	278	8	256
静岡県	6	905		
愛知県	10	1,709	8	1,355
京都府	1	60		
大阪府	1	5		
兵庫県	10	1,851		
奈良県	5	1,610	2	380
和歌山県	1	50		
島根県	1	400	1	400
広島県	2	9		
徳島県	2	2,005	1	0
香川県	4	100		
福岡県	1	1,200	0	900
佐賀県	5	3,010		
長崎県	10	1,740	0	30
大分県	3	2,125	2	1,625
宮崎県	2	1,964	1	1,748
鹿児島県	1	1,800		
合計	112	27,369	34	10,846

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載（現在とりまとめ中の都道府県もあり）

※追加の希望があれば随時更新

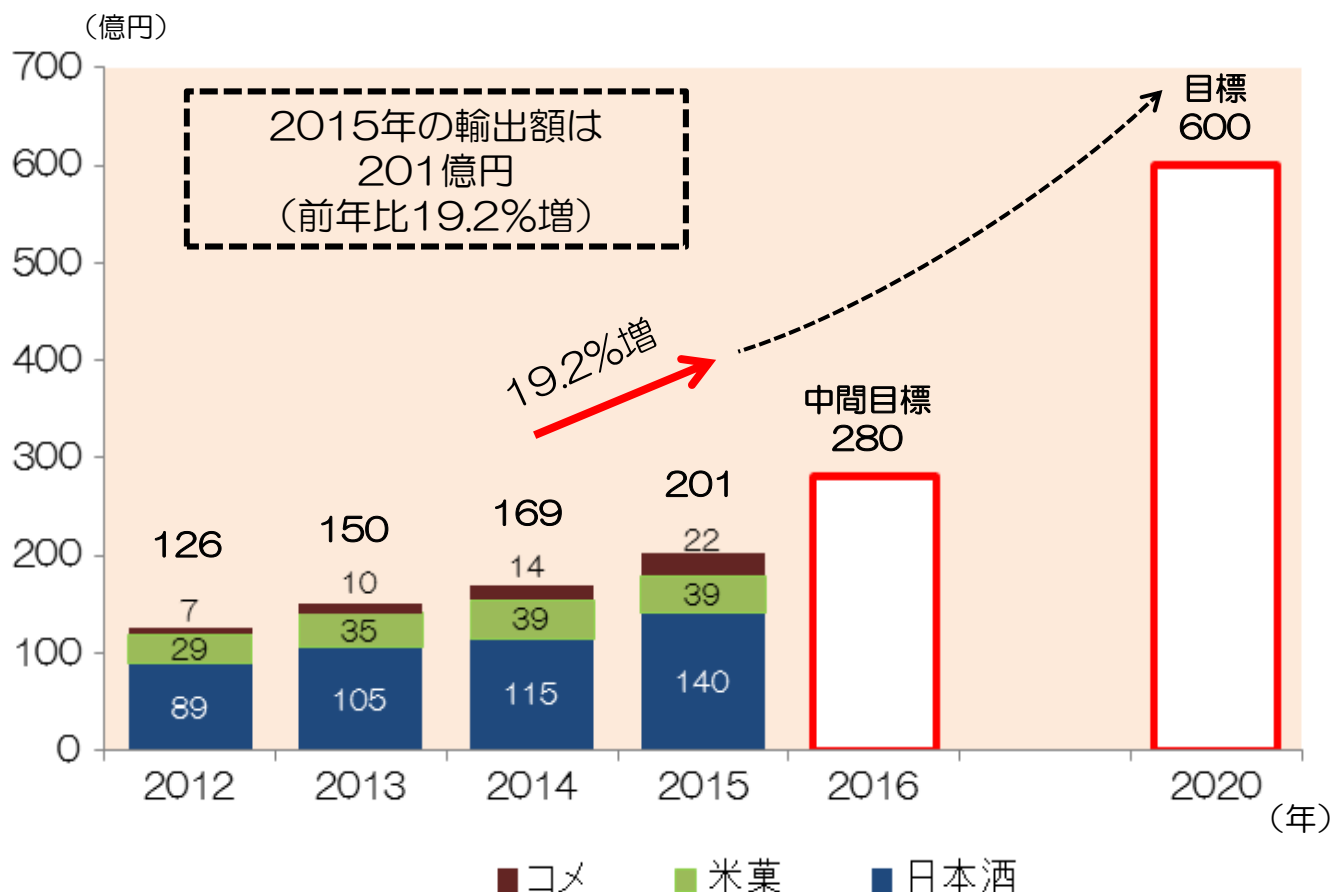
※確保済みの件数については、一部確保済みの場合も含む

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることとし、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2015年の輸出額は、201億円（前年比19.2%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成32年までに600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

★重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

★重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

★重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

〈日本産米輸出の統一ロゴマーク〉



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

Ⅵ 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

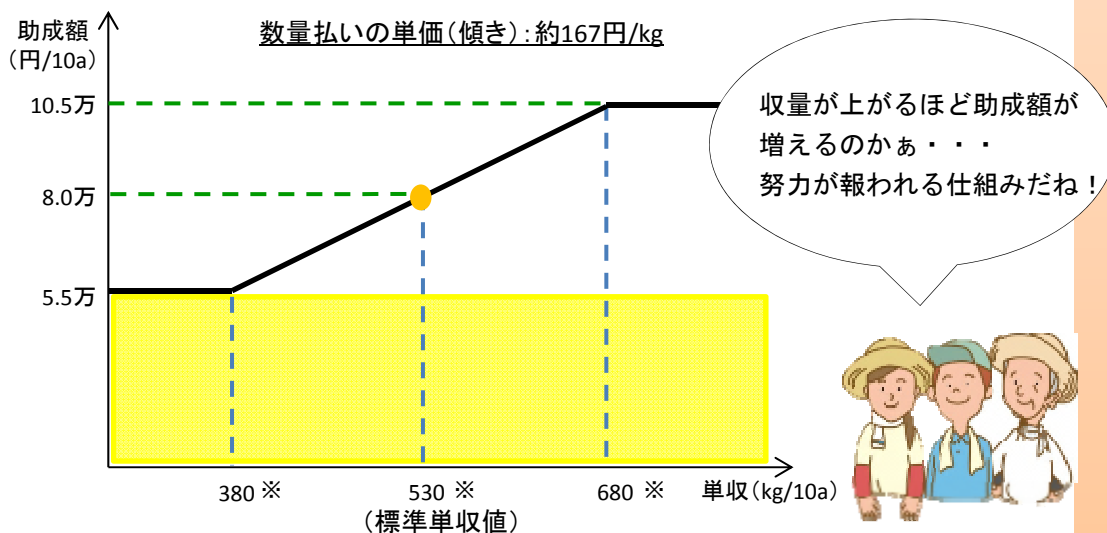
【平成28年度予算額:3,078(2,770)億円(所要額)】

(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	35,000円/10a
WCS用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000円～105,000円/10a

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量の確認を受けていることを条件とします。
- ※は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。

水田活用の直接支払交付金(2)

② 二毛作助成

- 水田における主食用米と戦略作物助成の対象作物、又は戦略作物助成の対象作物同士の組み合わせによる二毛作を支援します。

15,000円/10a

作付パターン(例)	交付金額(10a当たり)
主食用米 + 麦	(米の直接支払) + <u>1.5万円</u>
麦 + 大豆	3.5万円 + <u>1.5万円</u>
飼料用米 + 麦	5.5~10.5万円 + <u>1.5万円</u>
米粉用米 + 飼料用米	5.5~10.5万円 + <u>1.5万円</u>



③ 耕畜連携助成

- 耕畜連携の取組(飼料用米のわら利用、水田放牧、資源循環)を支援します。

13,000円/10a

④ 産地交付金

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づく、①水田における麦、大豆等の生産性向上等の取組、②地域振興作物や備蓄米の生産の取組等を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容(交付対象作物・取組・単価等)を設定できます。
- また、地域の取組に応じた追加配分(下表参照)を行います。

対象作物	取組内容	追加配分単価
飼料用米 米粉用米	多収品種への取組	12,000円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組	12,000円/10a
備蓄米	平成28年産政府備蓄米の買入入札における落札 ※ 平成23年度に県別優先枠として配分した6万トンについては対象外。	7,500円/10a
そば なたね	作付の取組	20,000円/10a(基幹作) 15,000円/10a(二毛作)

なお、主食用米作付面積が生産数量目標の面積換算値を下回ることとなる都道府県に対して追加配分(5,000円/10a)します。

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は47万8千件で、平成26年度の支払実績と比べて1万8千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では55万5千haと、平成26年度に比べて6万4千ha増加。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、全国的に作付けがやや増加し、3千ha増の17万1千ha
 - (イ) 大豆は、全国的に作付けが増加し、7千ha増の11万3千ha
 - (ウ) 飼料作物は、北海道、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、1千ha増の10万3千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、三品目全てで作付けが増加、5万4千ha増の12万2千ha。
 - (オ) 加工用米は、2千ha減の4万6千ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	個人	法人	集落営農
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
平成26年度	496,286	480,885	8,960	6,441
対前年度比較	▲ 17,993	▲ 19,027	+ 971	+ 63

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積、支払数量

① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲	米粉用米	飼料用米	加工用米	合計	(参考)		
										そば	なたね	備蓄米
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
平成26年度	167,451	105,690	101,736	67,926	30,669	3,372	33,885	48,051	490,855	34,735	497	43,876
対前年度比較	+ 3,139	+ 7,326	+ 1,497	+ 53,606	+ 7,190	+ 833	+ 45,582	▲ 1,894	+ 63,674	▲ 610	+ 88	▲ 104

② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲	米粉用米	飼料用米	加工用米	合計	(参考)	
										そば	なたね
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
平成26年度	97,605	80,231	72,054	67,925	30,669	3,371	33,885	45,996	363,810	25,899	363
対前年度比較	+ 1,345	+ 5,574	+ 123	+ 53,602	+ 7,190	+ 835	+ 45,577	▲ 1,898	+ 58,746	▲ 879	+ 108

③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	WCS用稲	米粉用米	飼料用米	加工用米	合計	(参考)	
										そば	なたね
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
平成26年度	69,846	25,460	29,683	1	—	1	—	2,055	127,045	8,836	134
対前年度比較	+ 1,794	+ 1,751	+ 1,375	+ 4	—	▲ 1	+ 5	+ 4	+ 4,928	+ 269	▲ 20

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、4千ha（1千ha増）、2万3千トン（5千トン増）539kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、7万8千ha（4万5千ha増）、43万2千トン（25万トン増）、555kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
平成26年度	3,336	18,014	540	32,790	181,769	554
対前年度比較	+ 844	+ 4,505	▲ 1	+ 44,942	+ 249,927	+ 1

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成

(単位: ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
平成26年度	9,776	1,271	20,944	31,992
対前年度比較	+ 10,090	+ 28	+ 4,692	+ 14,808

- 支払対象者数は82万件で、平成26年度に比べて5万8千件減少。
- 支払面積は95万3千ha（10a控除前：103万9千ha）で、平成26年度に比べて4万3千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考) 支払面積 10a控除前 (ha)
		個人	法人	集落営農		
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
平成26年度	877,996	866,303	7,048	4,645	996,210	1,089,278
対前年度比較	▲ 57,623	▲ 58,280	+ 758	▲ 101	▲ 43,146	▲ 50,027

(2) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

【平成28年度予算額：754(802)億円（所要額）】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

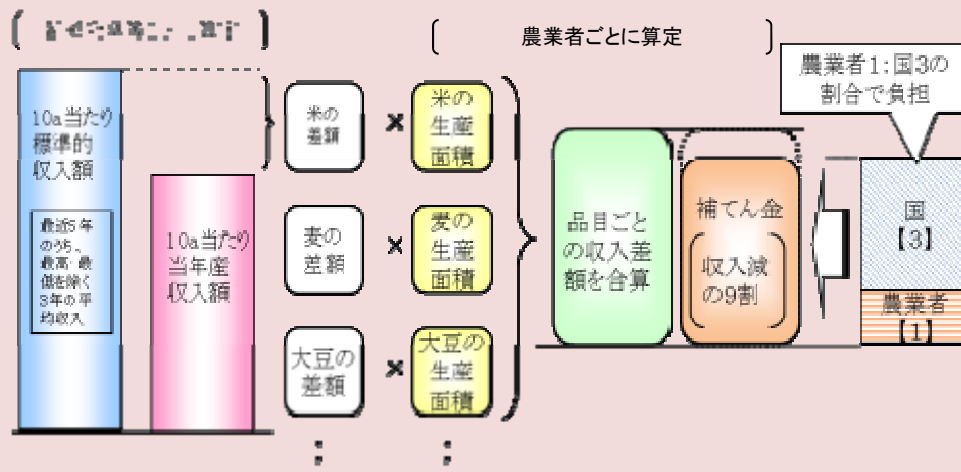
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成27年産ナラシ対策の支払い実績 (平成28年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県		加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国		108,733	93,891	332.33	9,418	94
北 海 道		19,968	8,872	29.14	4,283	42
東 北	青 森 県	5,283	4,993	9.89	6,995	69
	岩 手 県	3,381	3,175	8.20	5,086	50
	宮 城 県	4,340	4,229	19.98	7,931	79
	秋 田 県	8,746	8,441	19.52	5,943	59
	山 形 県	7,698	7,451	7.86	2,893	28
	福 島 県	4,779	4,642	17.42	12,005	120
関 東	茨 城 県	3,263	3,074	14.42	17,913	179
	栃 木 県	5,141	4,989	20.47	13,354	133
	群 馬 県	958	931	1.79	2,502	25
	埼 玉 県	1,265	1,188	2.62	10,642	106
	千 葉 県	1,082	1,050	5.63	16,495	164
	東 京 都	4	3	0.00	8,568	85
	神 奈 川 県	125	121	0.14	10,647	106
	山 梨 県	137	123	0.28	11,545	115
	長 野 県	1,412	1,344	10.01	15,093	150
	静 岡 県	338	328	2.71	12,411	124
北 陸	新 潟 県	12,617	12,440	53.45	11,598	115
	富 山 県	1,509	1,320	6.08	5,788	57
	石 川 県	1,776	1,719	10.03	10,702	107
	福 井 県	1,172	1,094	6.78	9,079	90
東 海	岐 阜 県	681	654	4.26	9,270	92
	愛 知 県	641	608	6.57	9,900	99
	三 重 県	933	913	6.00	10,133	101
近 畿	滋 賀 県	2,406	2,363	13.19	12,606	126
	京 都 府	334	306	0.88	9,878	98
	大 阪 府	29	25	0.01	9,081	90
	兵 庫 県	1,095	916	1.45	7,844	78
	奈 良 県	91	85	0.14	14,604	146
	和 歌 山 県	77	68	0.04	8,207	82
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	435	391	1.95	12,343	123
	島 根 県	749	734	4.83	11,895	118
	岡 山 県	903	865	3.34	15,352	153
	広 島 県	545	516	3.82	10,839	108
	山 口 県	845	817	2.84	7,483	74
	徳 島 県	231	208	0.40	13,037	130
	香 川 県	563	540	3.18	13,662	136
	愛 媛 県	644	615	2.29	15,634	156
	高 知 県	283	270	0.48	11,126	111
九 州	福 岡 県	1,995	1,924	9.15	6,103	61
	佐 賀 県	1,613	1,554	7.26	5,236	52
	長 崎 県	862	772	0.51	3,795	37
	熊 本 県	3,569	3,350	6.53	6,843	68
	大 分 県	1,410	1,306	2.74	10,157	101
	宮 崎 県	1,791	1,601	2.27	14,072	140
	鹿 児 島 県	919	873	1.74	6,962	69
沖 縄 県		95	90	0.05	2,052	20

(注1) 加入件数は、平成27年7月31日時点の積立金納付者の件数である。

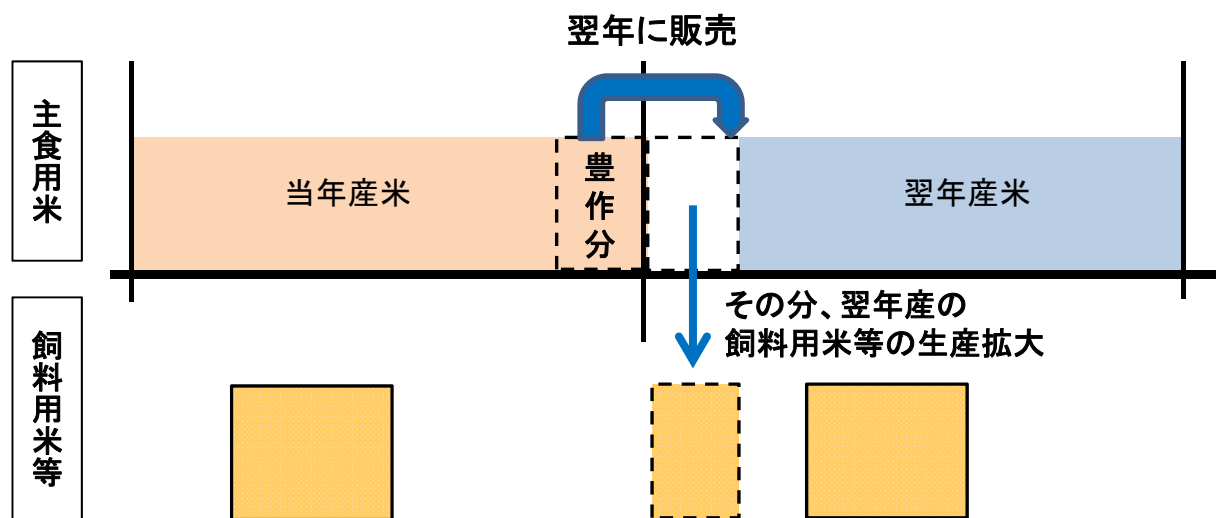
(注2) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(3) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

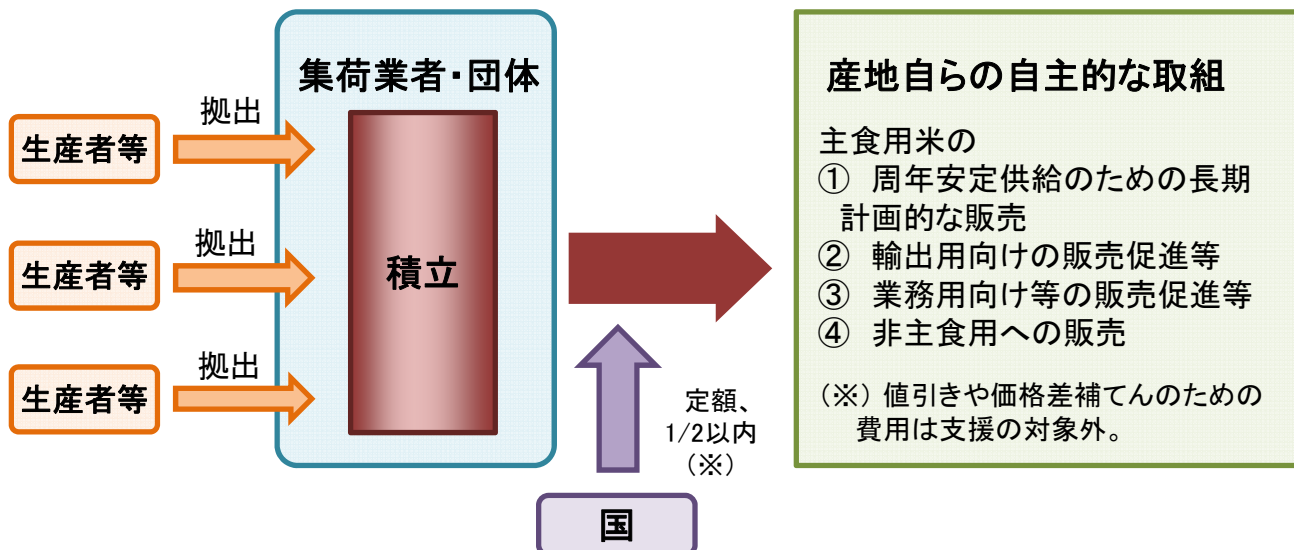
① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：28年度予算額 50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：28年度予算額 3,078億円（対前年+307億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

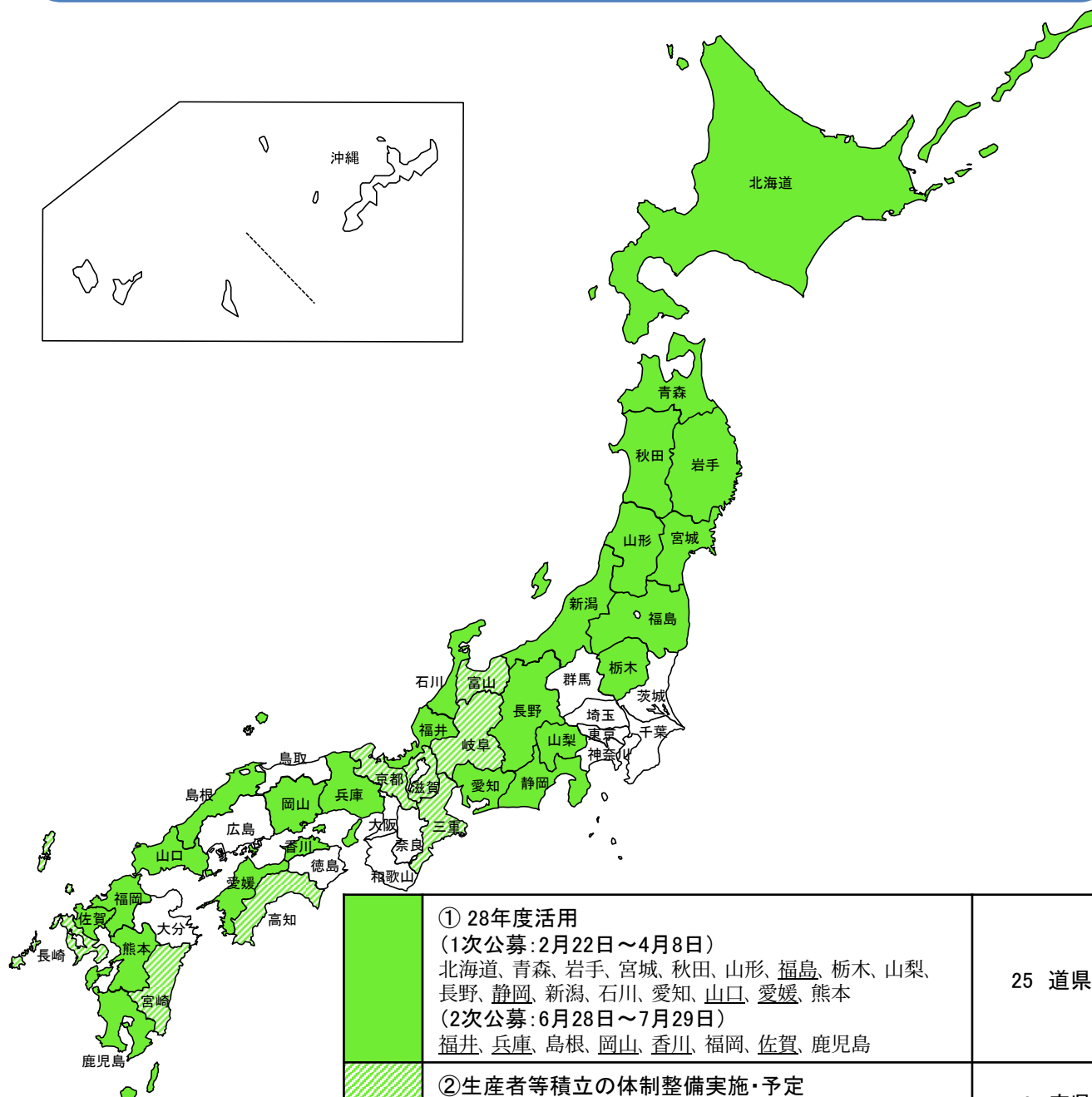
- 「米穀周年供給・需要拡大支援事業」は、産地の判断により、あらかじめ生産者等が資金を積立てる体制を構築して、以下の4つの取組を実施する場合に、国が一定の支援。



③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況（28年度2次公募後）

米穀周年供給・需要拡大支援事業の活用状況は、

- ・ 平成27年度では、17道県、18事業者が活用。
- ・ 平成28年度では、現時点で25道県、27事業者が活用しており、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。



① 28年度活用 (1次公募:2月22日～4月8日) 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、 <u>福島</u> 、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、愛知、 <u>山口</u> 、 <u>愛媛</u> 、熊本 (2次公募:6月28日～7月29日) <u>福井</u> 、兵庫、島根、岡山、香川、福岡、佐賀、鹿児島	25 道県
②生産者等積立の体制整備実施・予定 富山、岐阜、三重、滋賀、京都、高知、長崎、宮崎	8 府県
合 計 (①+②)	33道府県
(参考)27年度活用 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、千葉、山梨、長野、新潟、 石川、愛知、島根、福岡、熊本、鹿児島	17 道県

注1) 「28年度活用」の産地で下線を付した産地は28年度新規活用産地である。
また、1次及び2次のいずれにも応募した産地(5産地)は、1次公募の欄に記載している。
注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)

Ⅶ 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

〔 ○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミル）のモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。 〕

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成28年9月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で+4.5%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で+3.2%、中・外食は同+7.7%。

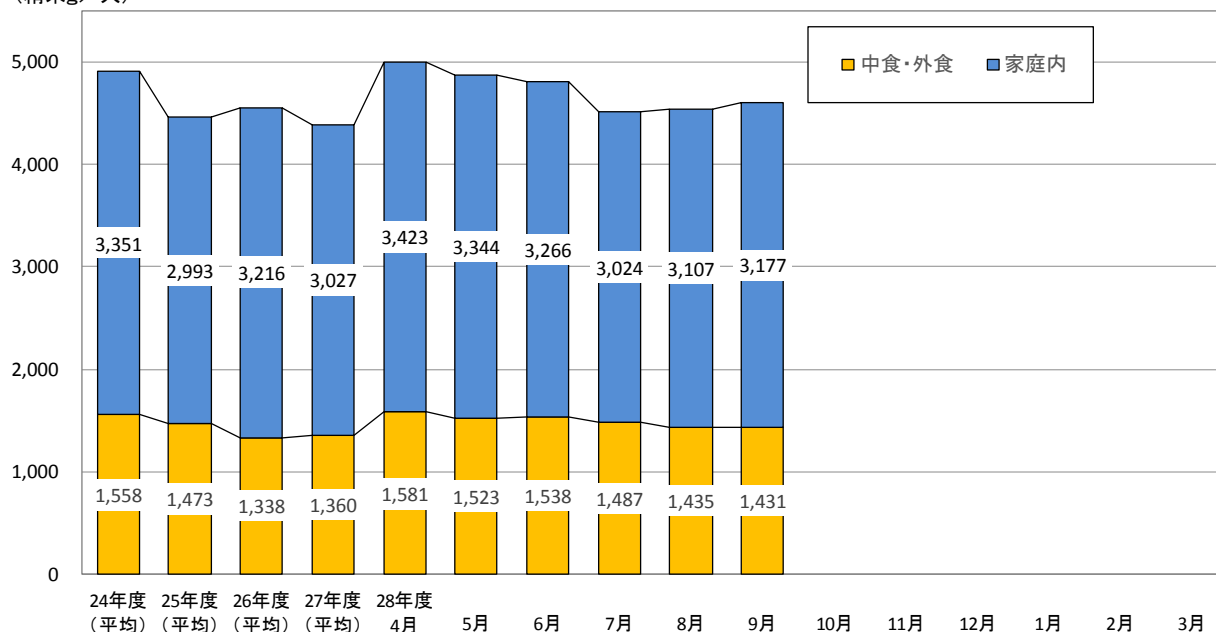
① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g／人、％）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食			合計	家庭内	中・外食		
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	4月	5,004	3,423	1,581	948	633	100.0	68.4	31.6	18.9	12.6	2.6	2.1	3.6	4.4	2.4
	5月	4,868	3,344	1,523	915	608	100.0	68.7	31.3	18.8	12.5	5.5	7.9	0.7	▲ 1.5	3.9
	6月	4,805	3,266	1,538	920	618	100.0	68.0	32.0	19.1	12.9	6.4	5.2	9.0	7.7	11.0
	7月	4,511	3,024	1,487	872	615	100.0	67.0	33.0	19.3	13.6	6.1	3.4	12.1	11.9	12.2
	8月	4,542	3,107	1,435	836	600	100.0	68.4	31.6	18.4	13.2	8.9	7.0	13.3	16.3	9.7
	9月	4,608	3,177	1,431	841	590	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	4.5	3.2	7.7	11.5	2.6

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g／人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成28年9月分の有効調査世帯数は2,237世帯。

2 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

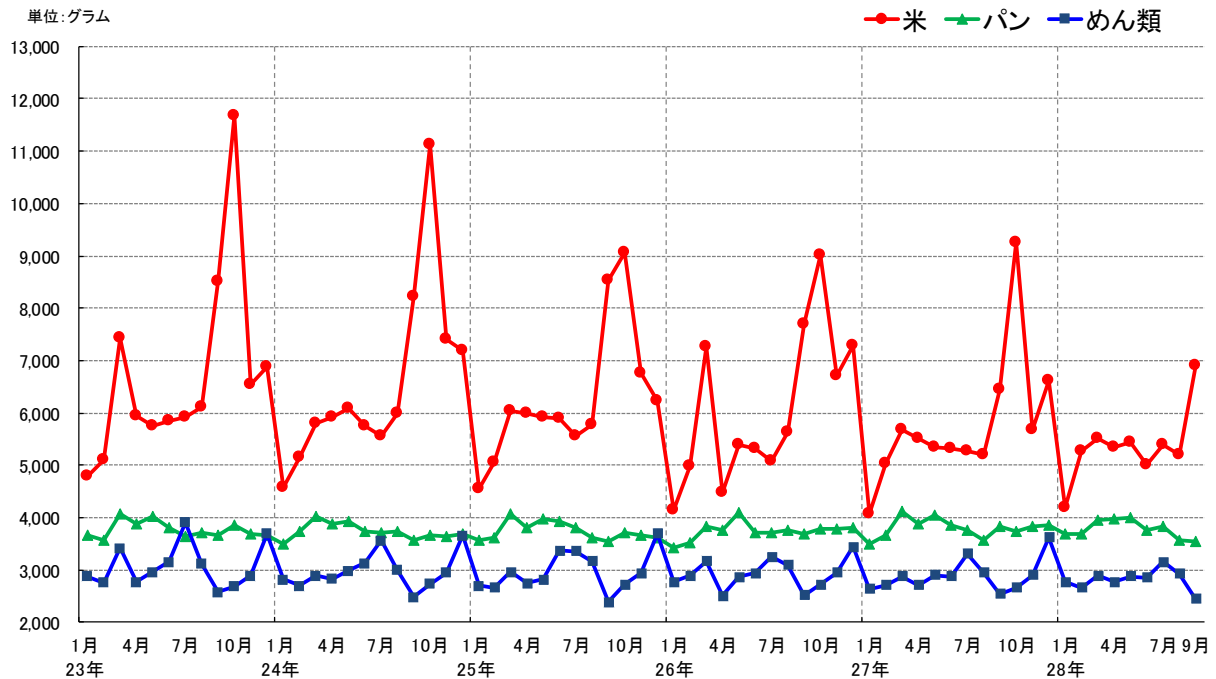
3 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

4 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移(家計調査)

- 総務省が公表している家計調査によると、平成28年9月の米の購入数量は、前年同月との比較で+7.3%の6.9kg、パンについては▲7.8%の3.5kg、めん類については▲4.0%の2.4kg。

1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位: グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年1月	4,180	103.0%	3,693	105.7%	2,771	105.0%
2月	5,280	105.0%	3,694	100.7%	2,661	98.2%
3月	5,520	97.0%	3,961	96.1%	2,886	100.2%
4月	5,340	97.1%	3,978	102.5%	2,776	102.3%
5月	5,430	101.5%	3,991	98.8%	2,884	99.3%
6月	5,000	94.0%	3,767	97.9%	2,860	99.5%
7月	5,390	102.5%	3,833	101.9%	3,153	95.2%
8月	5,210	100.2%	3,560	99.9%	2,924	99.1%
9月	6,910	107.3%	3,536	92.2%	2,444	96.0%

資料: 総務省「家計調査」

注: 1 二人以上の世帯の数値である。

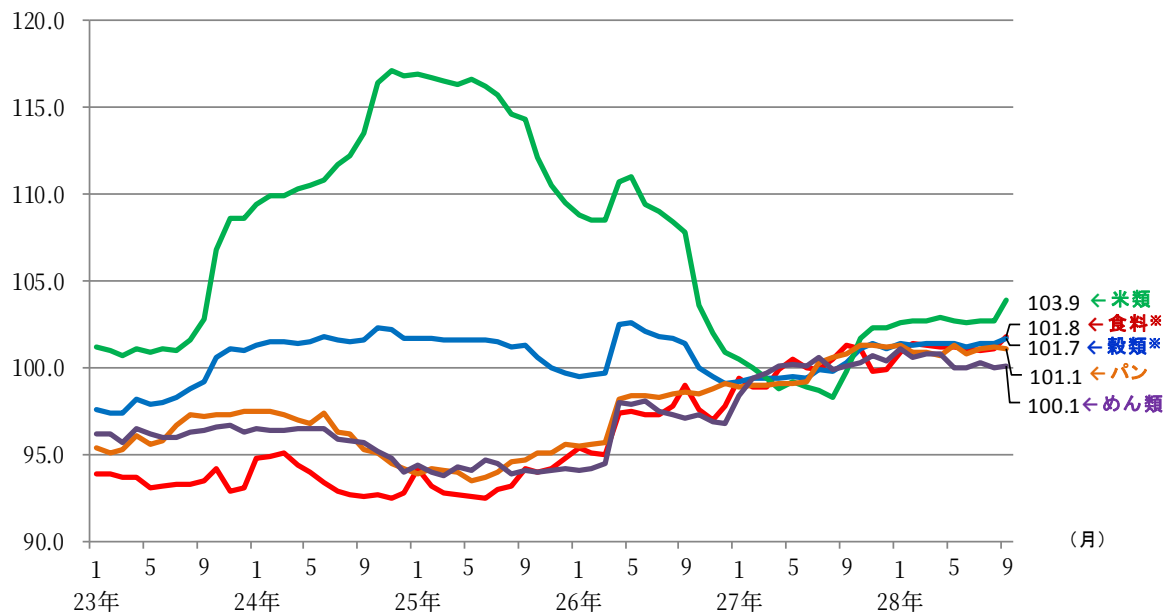
2 平成20年から平成27年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成28年9月の米類の指数は、先月と+1.2の103.9ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.1ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
2 図中の数値は、平成28年9月の消費者物価指数となる。
3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
平成17年	90.9	▲0.9%	98.9	▲6.6%	117.7	▲13.3%	118.3	▲12.9%	88.1	▲1.1%	88.5	▲0.8%
平成18年	91.3	0.5%	97.2	▲1.7%	114.1	▲3.1%	114.7	▲3.0%	88.0	▲0.1%	87.4	▲1.2%
平成19年	91.6	0.3%	96.7	▲0.5%	112.1	▲1.8%	112.8	▲1.6%	88.6	0.7%	87.0	▲0.5%
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年1月	100.9	1.5%	101.4	2.2%	102.6	2.1%	102.7	2.1%	101.3	2.4%	101.1	2.7%
2月	101.4	2.5%	101.3	1.9%	102.7	2.7%	102.7	2.7%	100.9	2.0%	100.6	1.2%
3月	101.3	2.5%	101.4	2.0%	102.7	3.3%	102.8	3.4%	100.9	1.9%	100.8	1.2%
4月	101.2	1.3%	101.4	2.0%	102.9	4.1%	102.9	4.2%	100.7	1.6%	100.8	0.7%
5月	101.2	0.7%	101.4	2.0%	102.7	3.5%	102.7	3.6%	101.3	2.2%	100.0	▲0.2%
6月	101.1	1.1%	101.2	1.8%	102.6	3.8%	102.7	3.9%	100.8	1.6%	100.0	0.0%
7月	101.0	1.1%	101.4	1.5%	102.7	4.1%	102.8	4.2%	101.1	0.8%	100.3	▲0.3%
8月	101.1	0.6%	101.4	1.6%	102.7	4.5%	102.8	4.6%	101.2	0.6%	100.0	0.1%
9月	101.8	0.6%	101.7	1.4%	103.9	4.1%	104.1	4.3%	101.1	0.3%	100.1	0.0%

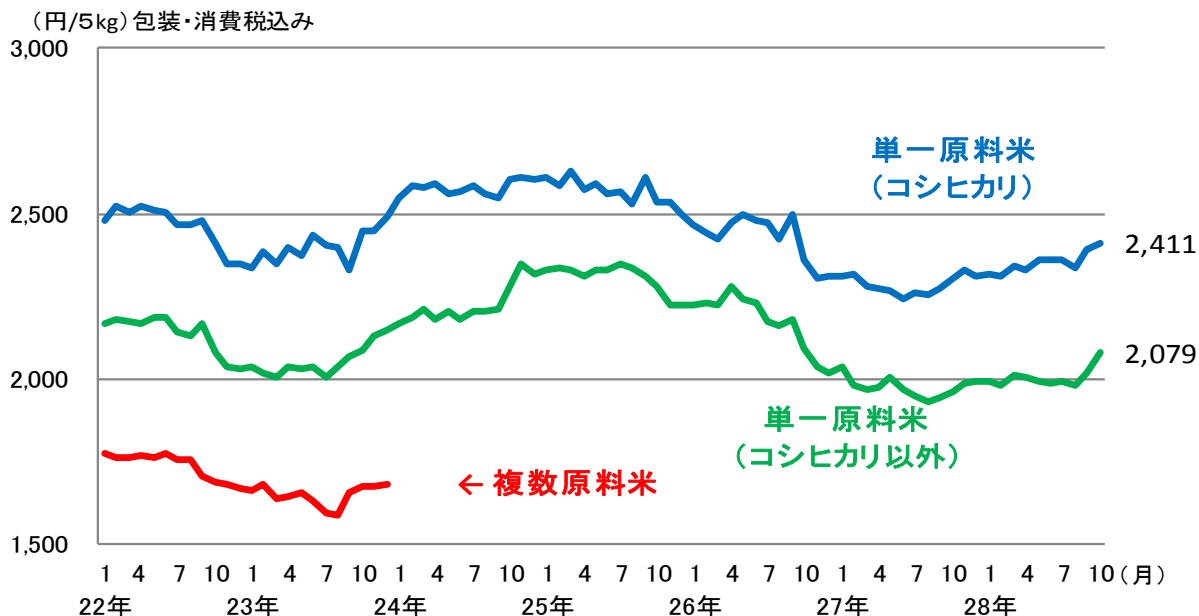
資料： 総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
4 平成17年から平成27年のデータは年平均、平成28年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成28年10月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前月より+0.8%、前年同月より+4.5%の2,411円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前月より+3.0%、前年同月より+6.0%の2,079円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成17年	2,804	—	2,375	—	2,040
平成18年	2,744	▲2.1%	2,341	▲1.4%	1,996
平成19年	2,670	▲2.7%	2,288	▲2.3%	1,950
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	—
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	—
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	—
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	—
平成28年1月	2,318	0.3%	1,990	▲2.2%	—
2月	2,309	▲0.2%	1,980	▲0.1%	—
3月	2,343	2.8%	2,008	2.0%	—
4月	2,329	2.6%	2,005	1.7%	—
5月	2,357	4.1%	1,994	▲0.4%	—
6月	2,357	5.3%	1,985	0.8%	—
7月	2,360	4.3%	1,991	2.3%	—
8月	2,333	3.6%	1,980	2.5%	—
9月	2,391	5.1%	2,019	4.0%	—
10月	2,411	4.5%	2,079	6.0%	—

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

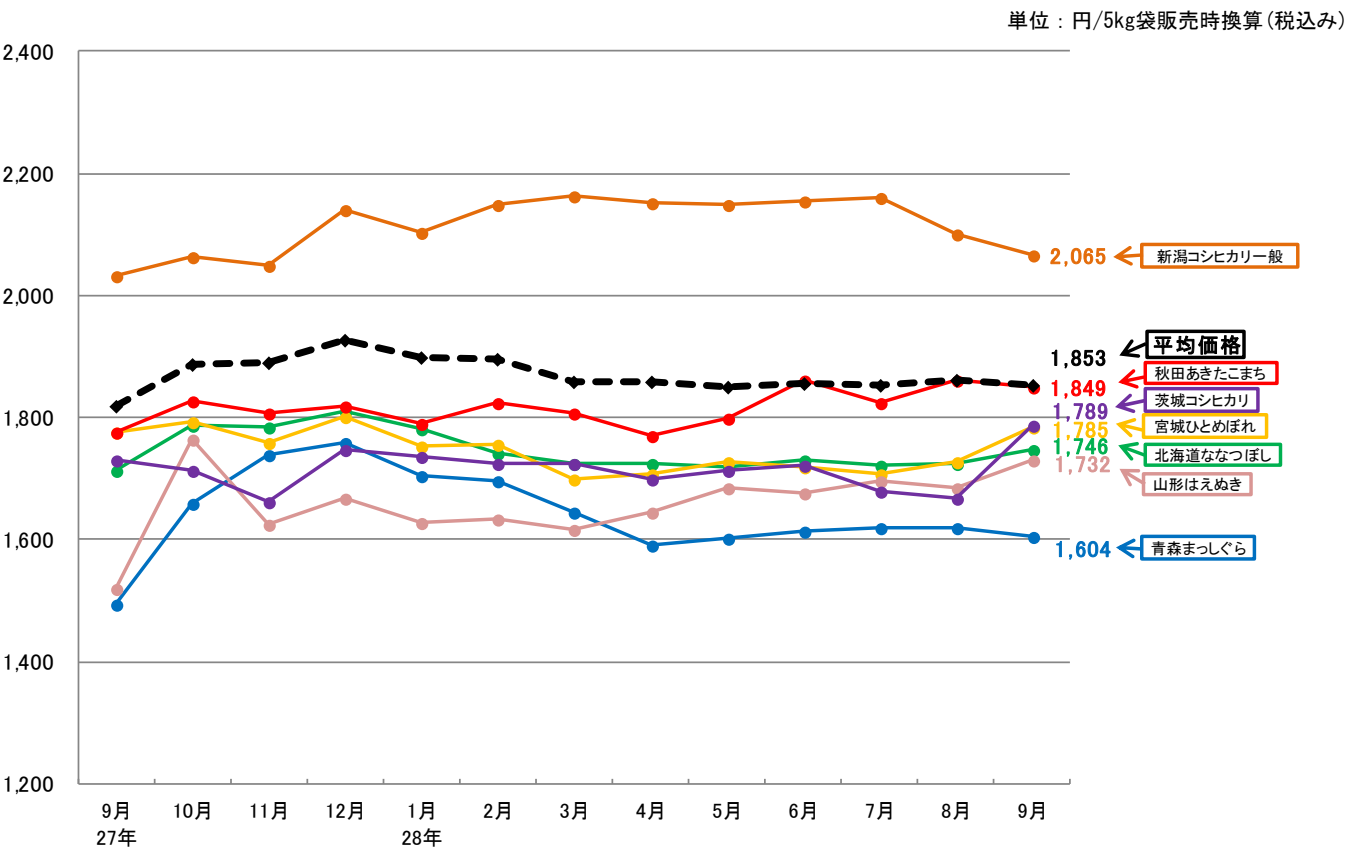
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成28年9月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より▲9円、前年同月より+35円(+1.9%)の1,853円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
27年9月	1,713	1,493	1,775	1,776	1,519	1,729	2,034	1,818
10月	1,789	1,658	1,794	1,829	1,765	1,713	2,064	1,887
11月	1,784	1,738	1,759	1,808	1,626	1,662	2,050	1,891
12月	1,811	1,758	1,803	1,820	1,667	1,747	2,142	1,926
28年1月	1,782	1,705	1,754	1,791	1,629	1,737	2,104	1,897
2月	1,742	1,698	1,757	1,826	1,633	1,725	2,148	1,895
3月	1,726	1,645	1,700	1,807	1,618	1,726	2,163	1,859
4月	1,724	1,591	1,709	1,771	1,644	1,700	2,152	1,859
5月	1,718	1,603	1,728	1,798	1,686	1,714	2,148	1,849
6月	1,732	1,615	1,720	1,861	1,676	1,721	2,154	1,857
7月	1,721	1,621	1,707	1,826	1,697	1,679	2,160	1,852
8月	1,725	1,620	1,729	1,860	1,685	1,667	2,101	1,862
9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
対前月比	1.2%	▲ 1.0%	3.2%	▲ 0.6%	2.8%	7.3%	▲ 1.7%	▲ 0.5%
対前年同月比	1.9%	7.4%	0.6%	4.1%	14.0%	3.5%	1.5%	1.9%

資料：(株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,030店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅸ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	19	11	3	9	1	43	42	1
平成8年度	23	14	4	9	1	51	49	2
平成9年度	29	15	5	9	1	60	54	6
平成10年度	31	15	8	11	3	68	55	12
平成11年度	34	16	9	12	2	72	59	12
平成12年度	36	17	10	12	2	77	63	12
平成13年度	36	15	14	11	1	77	66	10
平成14年度	36	15	11	10	4	77	71	5
平成15年度	36	15	11	9	5	76	65	10
平成16年度	36	19	10	2	10	77	66	9
平成17年度	36	19	8	2	12	77	66	10
平成18年度	36	18	8	5	10	77	65	10
平成19年度	36	24	8	－	1	70	59	10
平成20年度	43	26	7	－	1	77	66	10
平成21年度	36	33	7	－	1	77	66	10
平成22年度	36	35	2	4	1	77	73	4
平成23年度	36	24	6	7	4	77	66	10
平成24年度	36	28	5	6	1	77	66	10
平成25年度	36	35	0	4	2	77	70	6
平成26年度	36	33	6	1	1	77	75	1
平成27年度	36	34	6	0	1	77	73	3
平成28年度 (10月末現在)	17	14	0	0	0	31	30	1

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は万実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 万実トンと万玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位: トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成28年4～6月分	15,460	平成28年4～7月分	2,910
4月分	300	平成28年8～11月分	
5月分	875	平成28年12～平成28年3月分	
6月分	1,612		
7～9月分			
7月分			
8月分			
9月分			
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成29年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小 計	18,247	小 計	2,910
合計	21,157		

資料: 農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位: 実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成28年9月7日)	一般米	5,266	508	80		36		1,526		7,416
	砕精米	2,356	100	300	144	100				3,000
合計	一般米	5,266	508	80	0	36	0	1,526	0	7,416
	砕精米	2,356	100	300	144	100	0	0	0	3,000

平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452

資料: 農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～28年度

Ⅸ その他

(1) 水稻うるち玄米の農産物検査結果

- 平成27年産水稻うるち玄米の平成28年9月30日現在の検査数量は、前年産の同月と比べ+8%の166万トン。
- 1等米比率については、前年産より+1.5ポイントの84%。

① 検査数量の推移(累計)

単位:千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	
参考:前年比	93%	96%	86%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	
28	19	231	1,656							
参考:前年比	163%	105%	108%							

注:1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率(年産別)

単位:トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27(注2)	4,517,769	3,724,899	654,410	76,811	61,650	82.4	14.5	1.7	1.4
28(注3)	1,655,896	1,389,002	237,216	20,544	9,133	83.9	14.3	1.2	0.6

資料: 農林水産省とりまとめ

注: 1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 27年産米については、平成28年3月31日現在(速報値)。

3 28年産米については、平成28年9月30日現在(速報値)。

(2) 平成27年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域 都 道 府 県	作 付 面 積 (子 実 用)	収 穫 期				参 考	
		10 a 当 たり 収 量	農家等が使用しているふりい 目幅で選別		収 穫 量 (子 実 用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)
			10 a 当 たり 収 量	作 況 指 数			
	ha	kg	kg		t	ha	t
全 国	1,505,000	531	515	100	7,986,000	1,406,000	7,442,000
北 海 道	107,800	559	543	104	602,600	100,100	559,600
青 森	43,500	616	597	105	268,000	37,300	229,800
岩 手	51,400	560	545	105	287,800	48,100	269,400
宮 城	66,700	547	531	103	364,800	63,700	348,400
秋 田	88,700	589	572	103	522,400	71,200	419,400
山 形	65,300	614	594	103	400,900	57,700	354,300
福 島	65,600	557	531	101	365,400	61,500	342,600
茨 城	70,300	505	496	96	355,000	68,400	345,400
栃 木	58,300	531	518	98	309,600	54,100	287,300
群 馬	15,800	489	468	98	77,300	14,400	70,400
埼 玉	32,200	480	461	97	154,600	31,700	152,200
千 葉	57,000	539	529	101	307,200	55,200	297,500
東 京	156	405	392	98	632	156	632
神 奈 川	3,130	485	457	96	15,200	3,130	15,200
新 潟	117,500	527	509	97	619,200	102,400	539,600
富 山	38,600	559	542	103	215,800	34,200	191,200
石 川	26,100	522	509	101	136,200	23,600	123,200
福 井	25,600	518	495	99	132,600	23,900	123,800
山 梨	5,030	539	522	98	27,100	4,980	26,800
長 野	33,200	604	590	97	200,500	32,200	194,500
岐 阜	22,500	481	471	99	108,200	22,100	106,300
静 岡	16,300	503	493	96	82,000	16,100	81,000
愛 知	28,100	503	495	99	141,300	27,200	136,800
三 重	28,300	490	479	98	138,700	27,700	135,700
滋 賀	32,200	518	504	100	166,800	30,600	158,500
京 都	15,000	510	500	100	76,500	14,400	73,400
大 阪	5,440	495	477	100	26,900	5,440	26,900
兵 庫	37,300	501	488	99	186,900	35,700	178,900
奈 良	8,870	515	501	100	45,700	8,850	45,600
和 歌 山	6,900	499	488	101	34,400	6,900	34,400
鳥 取	12,900	512	501	99	66,000	12,400	63,500
島 根	17,900	503	492	98	90,000	17,500	88,000
岡 山	31,000	505	493	96	156,600	29,600	149,500
広 島	24,700	507	495	96	125,200	24,000	121,700
山 口	21,600	491	478	97	106,100	20,500	100,700
徳 島	11,900	457	453	97	54,400	11,700	53,500
早 期 栽 培	4,580	450	447	97	20,600	...	...
普 通 栽 培	7,340	461	456	96	33,800	...	...
香 川	13,600	470	465	94	63,900	13,500	63,500
愛 媛	14,600	488	482	98	71,200	14,600	71,200
高 知	12,000	444	440	96	53,300	11,900	52,800
早 期 栽 培	6,750	462	459	96	31,200	...	...
普 通 栽 培	5,290	420	415	97	22,200	...	...
福 岡	36,500	480	459	95	175,200	35,900	172,300
佐 賀	25,300	513	496	99	129,800	25,000	128,300
長 崎	12,500	479	460	100	59,900	12,500	59,900
熊 本	35,600	500	484	97	178,000	34,300	171,500
大 分	21,900	478	457	95	104,700	21,700	103,700
宮 崎	17,300	464	448	93	80,300	16,100	74,700
早 期 栽 培	7,090	411	399	85	29,100	...	...
普 通 栽 培	10,200	501	482	98	51,100	...	...
鹿 児 島	21,600	458	445	95	98,900	20,900	95,700
早 期 栽 培	4,910	396	383	88	19,400	...	...
普 通 栽 培	16,700	476	463	96	79,500	...	...
沖 縄	788	294	291	95	2,320	788	2,320
第 一 期 稲	556	342	341	92	1,900	...	...
第 二 期 稲	232	180	171	99	418	...	...

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
3 全国の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
4 （参考）の農家等が使用しているふりい目幅で選別された③10a 当たり収量、④10a 当たり平均収量及び⑤作況指数については、全国農業地域の農家等が使用しているふりい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふりい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

(3) 平成28年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況(10月15日現在)

全 国 都 道 府 県		作 付 面 積 （ 子 実 用 ）			10 a 当たり 予想収量 ②	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別		
						実 数 ①	前 年 産 と の 比 較	
		ha	ha	%			kg	kg
全 国 (1)		1,478,000	△ 27,000	98	544	532	517	103
北 海 道 (2)		105,000	△ 2,800	97	551	536	524	102
青 森 (3)		42,600	△ 900	98	604	590	569	104
岩 手 (4)		50,300	△ 1,100	98	540	530	519	102
宮 城 (5)		66,600	△ 100	100	554	542	517	105
秋 田 (6)		87,200	△ 1,500	98	591	577	554	104
山 形 (7)		65,000	△ 300	100	608	597	578	103
福 島 (8)		64,200	△ 1,400	98	555	538	526	102
茨 城 (9)		69,300	△ 1,000	99	521	509	516	99
栃 木 (10)		57,400	△ 900	98	551	541	528	102
群 馬 (11)		15,400	△ 400	97	504	489	479	102
埼 玉 (12)		31,700	△ 500	98	494	482	475	101
千 葉 (13)		55,700	△ 1,300	98	549	538	525	102
東 京 (14)		151	△ 5	97	415	406	401	101
神 奈 川 (15)		3,120	△ 10	100	495	484	478	101
新 潟 (16)		116,800	△ 700	99	581	565	524	108
富 山 (17)		38,100	△ 500	99	566	555	525	106
石 川 (18)		25,600	△ 500	98	534	525	504	104
福 井 (19)		25,100	△ 500	98	535	518	499	104
山 梨 (20)		4,990	△ 40	99	547	538	532	101
長 野 (21)		32,700	△ 500	98	624	615	609	101
岐 阜 (22)		22,200	△ 300	99	486	476	478	100
静 岡 (23)		16,000	△ 300	98	525	519	513	101
愛 知 (24)		27,700	△ 400	99	521	512	499	103
三 重 (25)		27,600	△ 700	98	522	511	488	105
滋 賀 (26)		31,900	△ 300	99	534	525	506	104
京 都 (27)		14,800	△ 200	99	516	507	501	101
大 阪 (28)		5,310	△ 130	98	505	491	480	102
兵 庫 (29)		37,000	△ 300	99	501	491	489	100
奈 良 (30)		8,710	△ 160	98	525	512	500	102
和 歌 山 (31)		6,720	△ 180	97	507	496	484	102
鳥 取 (32)		12,700	△ 200	98	522	515	504	102
島 根 (33)		17,700	△ 200	99	528	521	500	104
岡 山 (34)		30,400	△ 600	98	535	524	515	102
広 島 (35)		24,100	△ 600	98	531	523	512	102
山 口 (36)		21,000	△ 600	97	512	502	492	102
徳 島 (37)		11,700	△ 200	98	490	487	469	104
早 期 栽 培 (38)		4,470	△ 110	98	480	478	459	104
普 通 栽 培 (39)		7,180	△ 160	98	497	494	475	104
香 川 (40)		13,200	△ 400	97	508	504	493	102
愛 媛 (41)		14,200	△ 400	97	508	501	493	102
高 知 (42)		11,800	△ 200	98	458	456	454	100
早 期 栽 培 (43)		6,580	△ 170	97	481	479	476	101
普 通 栽 培 (44)		5,180	△ 110	98	428	425	427	100
福 岡 (45)		36,000	△ 500	99	501	481	479	100
佐 賀 (46)		24,800	△ 500	98	526	509	503	101
長 崎 (47)		12,000	△ 500	96	496	481	462	104
熊 本 (48)		33,800	△ 1,800	95	526	508	497	102
大 分 (49)		21,300	△ 600	97	506	483	480	101
宮 崎 (50)		16,800	△ 500	97	498	485	483	100
早 期 栽 培 (51)		6,730	△ 360	95	461	454	470	97
普 通 栽 培 (52)		10,000	△ 200	98	523	505	491	103
鹿 児 島 (53)		21,000	△ 600	97	483	468	469	100
早 期 栽 培 (54)		4,610	△ 300	94	429	416	434	96
普 通 栽 培 (55)		16,400	△ 300	98	498	482	479	101
沖 縄 (56)		785	△ 3	100	298	294	305	96
第 一 期 稲 (57)		560	4	101	351	348	365	95
第 二 期 稲 (58)		225	△ 7	97	...	...	...	...

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。

3 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10 a 当たり予想収量、④10 a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

予想収穫量（子実用）				参 考		
実 数 ⑥=①×②	前 年 産 と の 比 較			主 食 用 作 付 見 込 面 積 ⑦	予 想 収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑧=⑦×②	
	対 差	対 比				
t	t	%		ha	t	
8,044,000	58,000	101		1,381,000	7,498,000	(1)
578,600	△ 24,000	96		99,000	545,500	(2)
257,300	△ 10,700	96		36,800	222,300	(3)
271,600	△ 16,200	94		47,100	254,300	(4)
369,000	4,200	101		63,600	352,300	(5)
515,400	△ 7,000	99		69,300	409,600	(6)
395,200	△ 5,700	99		56,800	345,300	(7)
356,300	△ 9,100	98		60,100	333,600	(8)
361,100	6,100	102		67,200	350,100	(9)
316,300	6,700	102		53,600	295,300	(10)
77,600	300	100		14,100	71,100	(11)
156,600	2,000	101		31,200	154,100	(12)
305,800	△ 1,400	100		53,900	295,900	(13)
627	△ 5	99		151	627	(14)
15,400	200	101		3,110	15,400	(15)
678,600	59,400	110		101,500	589,700	(16)
215,600	△ 200	100		33,800	191,300	(17)
136,700	500	100		23,200	123,900	(18)
134,300	1,700	101		23,600	126,300	(19)
27,300	200	101		4,940	27,000	(20)
204,000	3,500	102		31,700	197,800	(21)
107,900	△ 300	100		21,700	105,500	(22)
84,000	2,000	102		15,800	83,000	(23)
144,300	3,000	102		26,900	140,100	(24)
144,100	5,400	104		27,000	140,900	(25)
170,300	3,500	102		30,200	161,300	(26)
76,400	△ 100	100		14,300	73,800	(27)
26,800	△ 100	100		5,310	26,800	(28)
185,400	△ 1,500	99		35,400	177,400	(29)
45,700	0	100		8,680	45,600	(30)
34,100	△ 300	99		6,720	34,100	(31)
66,300	300	100		12,500	65,300	(32)
93,500	3,500	104		17,300	91,300	(33)
162,600	6,000	104		29,200	156,200	(34)
128,000	2,800	102		23,400	124,300	(35)
107,500	1,400	101		19,800	101,400	(36)
57,300	2,900	105		11,500	56,400	(37)
21,500	900	104		...	...	(38)
35,700	1,900	106		...	...	(39)
67,100	3,200	105		13,200	67,100	(40)
72,100	900	101		14,200	72,100	(41)
54,000	700	101		11,600	53,100	(42)
31,600	400	101		...	...	(43)
22,200	0	100		...	...	(44)
180,400	5,200	103		35,400	177,400	(45)
130,400	600	100		24,600	129,400	(46)
59,500	△ 400	99		12,000	59,500	(47)
177,800	△ 200	100		32,500	171,000	(48)
107,800	3,100	103		21,100	106,800	(49)
83,700	3,400	104		15,500	77,200	(50)
31,000	1,900	107		...	...	(51)
52,300	1,200	102		...	...	(52)
101,400	2,500	103		20,200	97,600	(53)
19,800	400	102		...	...	(54)
81,700	2,200	103		...	...	(55)
2,340	20	101		785	2,340	(56)
1,970	70	104		...	...	(57)
...	...	...		...	...	(58)

4 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

5 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I	在庫情報	
	平成26・27年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成27年7月末から28年6月末) (速報)	1
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	12
	① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
	③ (株) 加工用米取引センターの取引結果	
	④ (株) 日本農産情報の取引結果	
	⑤ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外 (輸出を含む)	
	(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	15
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成28年産、都道府県別)	
	(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	17
	(3) 政府備蓄米の運営	18
	備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23～28年産)	
	(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	19
	(5) 主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	20
	(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	21
	(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	22
IV	消費動向	
	(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	23
	(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	26
V	その他	
	(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成28年10月分)	27
	(2) 平成27年産水陸稲の収穫量	32
	(3) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	36
	(4) 水稻玄米のふり目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移	37
	(5) 麦・大豆の需要情報	38
	① 29年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 27年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
	(6) 野菜等の需給情報	43
	(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	46

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

マンスリーレポートに関する問い合わせ先一覧

【農林水産省】

問い合わせ先	連絡先
政策統括官付農産企画課 ・企画班（林） ・米穀需給班（佐々木・石田・萱場）	03-6738-8973

【地方農政局等】

問い合わせ先	連絡先
北海道農政事務所 生産経営産業部 生産支援課	011-330-8807
東北農政局 生産部 生産振興課	022-221-6169
関東農政局 生産部 生産振興課	048-740-0100
北陸農政局 生産部 生産振興課	076-232-4302
東海農政局 生産部 生産振興課	052-223-4623
近畿農政局 生産部 生産振興課	075-414-9020
中国四国農政局 生産部 生産振興課	086-224-9411
九州農政局 生産部 生産振興課	096-300-6224
内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課	098-866-1653

【米に関する情報の公表をメールマガジンでお知らせしています！】

- 農林水産省では、米に関する各種情報を皆さまにお伝えできるよう「米に関するメールマガジン」を発刊しております。
- 当該メールマガジンにご登録いただくことにより、農林水産省が毎月公表している「相対取引価格・数量」「契約・販売状況」「民間在庫の推移」などの情報に加え、米に係る各種資料について、公表後、直ちにメールでお知らせいたします。
- メールマガジンの配信につきましては、農林水産省ホームページからご登録ください。

【メールマガジン配信登録】

農林水産省ホーム>報道広報>メールマガジン

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>